

類字名所和歌集

六

津田文庫

文庫 1

1627

6



類字名和歌集第六

女一代集校書

安行

風山

山城 葛野郡

拾遺秋

とみ今今あわし此山前よ今今山忠の舞とく和し又 後天不知

同

あまきまらぬ前山あまじきれはあまは綿さぬ今今山 古事記公任

後拾遺冬

又前川あまじきあまれとあまそ前山あまらまらまら 作歌

金乘秋

世中と秋えそぬあまそとくゆらま前山あまらとく流 藤原経朝

十載秋下

々々前山あまを又前川あまあまらまらまらまら 後惠法師

新古今秋下

思あまらまらとくそなほはあまそとく前山あまらまらまら 夜来補正

同哀傷

うき世まら今今あわし前山あまらまらまらまら 俊成

同難一

思ひ出る人もあまらまら前山あまらまらまらまら 法華静賢

後後撰秋下

秋ゆるんとあまらまら前山あまらまらまらまら 大蔵有家

同難上

若みし前山あまらまら前山あまらまらまらまら 西行法師

後古今冬

前山あまらまら前山あまらまらまらまら 太上天皇

同難中

山前あまらまら前山あまらまらまらまら 同

後拾遺秋上

前山あまらまら前山あまらまらまらまら 前田實家



010190607750

同秋下

あはれおるるはねを初とて其の事してほそあつて 太上天皇

同

貴山よりふかき也おれ家との時をきとてふふ出ん 前権宿願

同

吹ふかたしと山におしすこほふ家の多き時を 山内道連

手業秋下
後千載碁

又あはれおしとの火葉を寺社のありありの月 俊成

同

貴山よりふかき也おれ家との時をきとてふふ出ん 前大納言

同

吹かるとと貴山より春かねてあつたふじとあつたは 権大納言

同

吹かるとと貴山より春かねてあつたふじとあつたは 為道

同

吹かるとと貴山より春かねてあつたふじとあつたは 春談公明

同

吹かるとと貴山より春かねてあつたふじとあつたは 前大納言

同難上

吹かるとと貴山より春かねてあつたふじとあつたは 法皇内親

同難上

吹かるとと貴山より春かねてあつたふじとあつたは 藤原頼景

同春下

吹かるとと貴山より春かねてあつたふじとあつたは 永福門院左

新千載碁

吹かるとと貴山より春かねてあつたふじとあつたは 鎌倉右大臣

同

吹かるとと貴山より春かねてあつたふじとあつたは 後多院

同秋下

吹かるとと貴山より春かねてあつたふじとあつたは 前園白

同

吹かるとと貴山より春かねてあつたふじとあつたは 大蔵有業

同

吹かるとと貴山より春かねてあつたふじとあつたは 惟春高親王

同

吹かるとと貴山より春かねてあつたふじとあつたは 中納言有忠

同

吹かるとと貴山より春かねてあつたふじとあつたは 法下長輝

同

吹かるとと貴山より春かねてあつたふじとあつたは 中納言花家

同

吹かるとと貴山より春かねてあつたふじとあつたは 周防内侍

新拾遺冬

吹かるとと貴山より春かねてあつたふじとあつたは 山内道連

同難上

吹かるとと貴山より春かねてあつたふじとあつたは 前内大臣

同難上

吹かるとと貴山より春かねてあつたふじとあつたは 内大臣

新後拾遺下秋

吹かるとと貴山より春かねてあつたふじとあつたは 為氏

同冬

吹かるとと貴山より春かねてあつたふじとあつたは 前大納言

拾遺雜

吹かるとと貴山より春かねてあつたふじとあつたは 公条のちい

有栖川

吹かるとと貴山より春かねてあつたふじとあつたは 山城 愛宕郡

千載賀

吹かるとと貴山より春かねてあつたふじとあつたは 京極前

新冬衰傷

吹かるとと貴山より春かねてあつたふじとあつたは 中院有大臣

花巻升

同 同

玉葉依
るともやい更の地とあき舟入法珠之身兼任ゆらん 雅明親王
あはれけふあはれいさく福とと宿りじぬ言花の法式 前奉儀 鳥

縣井戸

同 同

後撰春下
都念ふとあはれん蛙さくあはれおのの敷をふんれ 福公平女
後撰撰春下
蛙さくあはれこの升をまきかたてておのの敷をふんれ山吹の花 後鳥羽院

縣之

同

新撰古今神
のねむあはれあはれいさく後撰春下あはれおのの敷をふんれ 中原 尊氏
栗田山 同

哀滅罪
夏めさくいさくあはれいさくあはれおのの敷をふんれ 山ノ藤原 ちやり

秋山

同 紀伊郡

後撰拾遺秋下
衣の白きおのの敷をふんれいさくあはれおのの敷をふんれ 前大納言 俊
新撰拾遺秋下
衣の白きおのの敷をふんれいさくあはれおのの敷をふんれ 中国入を前
大政大臣

同雑上
夕日さくおのの敷をふんれいさくあはれおのの敷をふんれ 祝部尚長
新撰古今秋下
夕日さくおのの敷をふんれいさくあはれおのの敷をふんれ 等持院 贈
九大臣

新古今秋下
夕日さくおのの敷をふんれいさくあはれおのの敷をふんれ 權大納言 實
前大政大臣

後古今冬
夕日さくおのの敷をふんれいさくあはれおのの敷をふんれ 左京大夫 實
前大政大臣

同秋下
夕日さくおのの敷をふんれいさくあはれおのの敷をふんれ 權大納言 實
前大政大臣

新撰古今
夕日さくおのの敷をふんれいさくあはれおのの敷をふんれ 權大納言 實
前大政大臣

同
夕日さくおのの敷をふんれいさくあはれおのの敷をふんれ 權大納言 實
前大政大臣

新撰拾遺夏
夕日さくおのの敷をふんれいさくあはれおのの敷をふんれ 權大納言 實
前大政大臣

新撰古今秋下
夕日さくおのの敷をふんれいさくあはれおのの敷をふんれ 權大納言 實
前大政大臣

詞苑雜上
夕日さくおのの敷をふんれいさくあはれおのの敷をふんれ 權大納言 實
前大政大臣

同雜下
夕日さくおのの敷をふんれいさくあはれおのの敷をふんれ 權大納言 實
前大政大臣

千載賀
夕日さくおのの敷をふんれいさくあはれおのの敷をふんれ 權大納言 實
前大政大臣

新古今春上
夕日さくおのの敷をふんれいさくあはれおのの敷をふんれ 權大納言 實
前大政大臣

新古今夏
夕日さくおのの敷をふんれいさくあはれおのの敷をふんれ 權大納言 實
前大政大臣

同
夕日さくおのの敷をふんれいさくあはれおのの敷をふんれ 權大納言 實
前大政大臣

同
夕日さくおのの敷をふんれいさくあはれおのの敷をふんれ 權大納言 實
前大政大臣

同
夕日さくおのの敷をふんれいさくあはれおのの敷をふんれ 權大納言 實
前大政大臣

同
夕日さくおのの敷をふんれいさくあはれおのの敷をふんれ 權大納言 實
前大政大臣

同冬 名かれまの山 山 俊成

新勅撰春 久さるるれり 山 山 俊成

後撰撰書 久望のまのく 山 山 俊成

同 久望のまのく 山 山 俊成

同春中 久望のまのく 山 山 俊成

同冬 久望のまのく 山 山 俊成

同神上 久望のまのく 山 山 俊成

同 久望のまのく 山 山 俊成

同冬 久望のまのく 山 山 俊成

同神祇 久望のまのく 山 山 俊成

同難下 久望のまのく 山 山 俊成

同賀 久望のまのく 山 山 俊成

後拾遺秋下 久望のまのく 山 山 俊成

同難上 久望のまのく 山 山 俊成

同神祇 久望のまのく 山 山 俊成

同難下 久望のまのく 山 山 俊成

同賀 久望のまのく 山 山 俊成

後拾遺秋下 久望のまのく 山 山 俊成

同難上 久望のまのく 山 山 俊成

同神祇 久望のまのく 山 山 俊成

同難下 久望のまのく 山 山 俊成

同賀 久望のまのく 山 山 俊成

後拾遺秋下 久望のまのく 山 山 俊成

同難上 久望のまのく 山 山 俊成

同神祇 久望のまのく 山 山 俊成

同難下 久望のまのく 山 山 俊成

同賀 久望のまのく 山 山 俊成

後拾遺秋下 久望のまのく 山 山 俊成

名かれまの山 山 俊成

久望のまのく 山 山 俊成

久望のまのく 山 山 俊成

久望のまのく 山 山 俊成

久望のまのく 山 山 俊成

久望のまのく 山 山 俊成

久望のまのく 山 山 俊成

久望のまのく 山 山 俊成

久望のまのく 山 山 俊成

久望のまのく 山 山 俊成

久望のまのく 山 山 俊成

久望のまのく 山 山 俊成

久望のまのく 山 山 俊成

久望のまのく 山 山 俊成

久望のまのく 山 山 俊成

久望のまのく 山 山 俊成

久望のまのく 山 山 俊成

後拾遺上春

同冬

新撰拾遺春

飛鳥川里都寺

大和 高市郡

同冬

同恋四

同

同雜下

同

後撰恋二

同恋三

同

同返

同恋六

同雜三

同

後拾遺恋三

新恋今秋下

同

同朝張

同

同雜中

新撰撰秋下

同冬

同雜三

同雜四

後撰撰夏

同秋下

同雜上

同雜中

後撰春上

昔向のふまのちもれはらうく 曉るもくもくしんれ 本意有案

同恋六のあはれはらうく人こををわく 暁るもくもくしんれ 前撰僧正

雲うの心う 柳うたをぬき 雲うあまの川を求むるに 前内大臣

所むらひをふと 尋てあす川流て せうは日也さう 春道則樹

あまの河瀬に ともなる世ありとも 思ひ初らん 今を去る 後人不知

終るに あすは けしん ともなるあまの川を 人の心もえん 同恋三の

世中のあまの川を 尋てあす川流て せうは日也さう 春道則樹

飛鳥川を 尋てあす川流て せうは日也さう 春道則樹

外の川を 尋てあす川流て せうは日也さう 春道則樹

測るに せうは日也さう 春道則樹

賦るに せうは日也さう 春道則樹

あまの川を 尋てあす川流て せうは日也さう 春道則樹

あまの川を 尋てあす川流て せうは日也さう 春道則樹

あまの川を 尋てあす川流て せうは日也さう 春道則樹

例也 せうは日也さう 春道則樹

あすの川を 尋てあす川流て せうは日也さう 春道則樹

あすの川を 尋てあす川流て せうは日也さう 春道則樹

あすの川を 尋てあす川流て せうは日也さう 春道則樹

定め せうは日也さう 春道則樹

あまの川を 尋てあす川流て せうは日也さう 春道則樹

あすの川を 尋てあす川流て せうは日也さう 春道則樹

あまの川を 尋てあす川流て せうは日也さう 春道則樹

あすの川を 尋てあす川流て せうは日也さう 春道則樹

あまの川を 尋てあす川流て せうは日也さう 春道則樹

あすの川を 尋てあす川流て せうは日也さう 春道則樹

あまの川を 尋てあす川流て せうは日也さう 春道則樹

あまの川を 尋てあす川流て せうは日也さう 春道則樹

あまの川を 尋てあす川流て せうは日也さう 春道則樹

あまの川を 尋てあす川流て せうは日也さう 春道則樹

あまの川を 尋てあす川流て せうは日也さう 春道則樹

あまの川を 尋てあす川流て せうは日也さう 春道則樹

あまの川を 尋てあす川流て せうは日也さう 春道則樹

あまの川を 尋てあす川流て せうは日也さう 春道則樹

赤澤忠 人磨 権納言 元明天皇 素覺法師 中務 後人不知 知照法師 公孫院 真昭法師 本幸太君 本幸權師 順徳院 西園寺入道 前大臣 中務親王

同夏

あまのあすの里の部云鳴のりやうりくく

無屋全道前
孫政政大臣

同

あまのあすの里の部云鳴のりやうりくく

雅成親王
定家

同冬

あまのあすの里の部云鳴のりやうりくく

大納言良教
六上天皇

同

あまのあすの里の部云鳴のりやうりくく

田原天皇
天曆中

同

あまのあすの里の部云鳴のりやうりくく

後鳥羽院
源光行

同

あまのあすの里の部云鳴のりやうりくく

源光行
後花園院
前大政大臣

同

あまのあすの里の部云鳴のりやうりくく

法華公普
前納言為
前園白左大臣

同

あまのあすの里の部云鳴のりやうりくく

後深院
昭恒

同

あまのあすの里の部云鳴のりやうりくく

院新宰相
上御門院

同

あまのあすの里の部云鳴のりやうりくく

院新宰相
家隆

同

あまのあすの里の部云鳴のりやうりくく

中納言家持
源兼成

同

あまのあすの里の部云鳴のりやうりくく

源兼成
未人

同

あまのあすの里の部云鳴のりやうりくく

大江貞重
津守国助

同

あまのあすの里の部云鳴のりやうりくく

万秋門院
源兼康

同

あまのあすの里の部云鳴のりやうりくく

八郎公明
権納言公雄

同

あまのあすの里の部云鳴のりやうりくく

友東為明
後伏見院

同

あまのあすの里の部云鳴のりやうりくく

後伏見院
小町

同人教

新子載夏

同

同恋四

同離下

新拾遺落

同夏

同

同整上

同

同華

新後拾遺上春

同夏

同

同秋下

同新秋

新後拾遺上春

同秋上

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや 平忠度朝臣

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや 前僧正公朝

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや 権中納言公權

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや 前納言公權

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや 俊頼

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや 前納言公權

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや 権中納言公權

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや 一条内大臣

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや 彈正平朝臣親

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや 前納言公權

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや 一条大政大臣

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや 前納言公權

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや 宝徳院

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや 関白前左大臣

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや 従三位行家

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや 関白前左大臣

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや 家隆

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや 龜山院

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや 中國入道前

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや 不政大臣

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや 權僧都

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや 前納言公權

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや 祝部成光

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや 成恩寺関

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや 自前左大臣

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや 津守國

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや 津守國

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや 朝原

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや 大和 葛下郡

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや 漢不知

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや 平林平

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや 人磨

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや 藤原長能

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや 大宰大貳

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや 源雅兼朝臣

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや

あはれなる心とされぬあはれ川流も流るる地とてうや

千載春上

春のふれおの原とみわくせの霞とさそをまてり物

源後村公良

同秋上

春をまてわくせの霞の若糸を一夜をらん神をわくせ

大納言師頼

後後撰春中

あふ橋をわくせの霞とさそをまてり物

前内倉家良

新後撰春上

あふ橋をわくせの霞とさそをまてり物

光信寺入道

同秋上

春のさそをわくせの霞とさそをまてり物

相模

同亦三

あふ橋をわくせの霞とさそをまてり物

従三位為徳

後後撰春上

あふ橋をわくせの霞とさそをまてり物

後醍醐院

同冬

あふ橋をわくせの霞とさそをまてり物

法入不知

新千載秋上

あふ橋をわくせの霞とさそをまてり物

藤原基任

同冬

あふ橋をわくせの霞とさそをまてり物

源兼光

同亦三

あふ橋をわくせの霞とさそをまてり物

後宇多院

新後撰春上

あふ橋をわくせの霞とさそをまてり物

等持院

同秋下

あふ橋をわくせの霞とさそをまてり物

土山右大臣

新後古今春

あふ橋をわくせの霞とさそをまてり物

前中納言

金葉秋

あふ橋をわくせの霞とさそをまてり物

後鳥羽院

後撰撰秋中

あふ橋をわくせの霞とさそをまてり物

定家

新後撰春上

あふ橋をわくせの霞とさそをまてり物

後入不知

玉葉秋上

あふ橋をわくせの霞とさそをまてり物

後兼光

後撰撰春上

あふ橋をわくせの霞とさそをまてり物

修理亮

新後撰春上

あふ橋をわくせの霞とさそをまてり物

順徳院

後古今秋上

あふ橋をわくせの霞とさそをまてり物

法下実年

玉葉秋

あふ橋をわくせの霞とさそをまてり物

入誓

新後撰春上

あふ橋をわくせの霞とさそをまてり物

前左兵衛督

新後撰春上

あふ橋をわくせの霞とさそをまてり物

藤原宗秀

同

あふ橋をわくせの霞とさそをまてり物

為成

秋の茶里

あふ橋をわくせの霞とさそをまてり物

法下実年

新古今冬

あふ橋をわくせの霞とさそをまてり物

西行法師

秋の茶里

大和 平群郡

西行法師

王業秋下 わさひは生約わもあつたれて多き秋の初る秋の葉里 前本後俊

青嶺 同 吉野郡

千載春上 芳野川あつたさうとほじと根を子也其の物 顯昭法師

凡雅春下 吉野川のほとけはふくたもあつたさうとほじと根を子也其の物 從三位賴政

新拾遺雜中 雲うらま根を子也其の物 世のくんと今 修理亮 李

赤膚山 大和

新拾遺神 衣のあつたさうとほじと根を子也其の物 住吉明神 伊弉

在原寺 同

王業雜上 秋のうらま根を子也其の物 天の川をさうとほじと根を子也其の物 聖德太子

天河川原 河内 交野郡

古今疎 るさうとほじと根を子也其の物 天の川をさうとほじと根を子也其の物 業平朝臣

後撰冬 天の川をさうとほじと根を子也其の物 天の川をさうとほじと根を子也其の物 侯人不知

新支多雜中 天の川をさうとほじと根を子也其の物 天の川をさうとほじと根を子也其の物 極政大臣

後撰夏 天の川をさうとほじと根を子也其の物 天の川をさうとほじと根を子也其の物 前奈納言 家

後撰秋 天の川をさうとほじと根を子也其の物 天の川をさうとほじと根を子也其の物 侯人不知

王業冬 天の川をさうとほじと根を子也其の物 天の川をさうとほじと根を子也其の物 前奈納言 家

新千載恋四 天の川をさうとほじと根を子也其の物 天の川をさうとほじと根を子也其の物 津守國助

新後撰冬 天の川をさうとほじと根を子也其の物 天の川をさうとほじと根を子也其の物 津守國助

同雜春 天の川をさうとほじと根を子也其の物 天の川をさうとほじと根を子也其の物 津守國助

同雜秋 天の川をさうとほじと根を子也其の物 天の川をさうとほじと根を子也其の物 津守國助

新後撰春 天の川をさうとほじと根を子也其の物 天の川をさうとほじと根を子也其の物 津守國助

同雜秋 天の川をさうとほじと根を子也其の物 天の川をさうとほじと根を子也其の物 津守國助

新後撰春 天の川をさうとほじと根を子也其の物 天の川をさうとほじと根を子也其の物 津守國助

同雜秋 天の川をさうとほじと根を子也其の物 天の川をさうとほじと根を子也其の物 津守國助

拾遺恋四 天の川をさうとほじと根を子也其の物 天の川をさうとほじと根を子也其の物 津守國助

後拾遺恋 天の川をさうとほじと根を子也其の物 天の川をさうとほじと根を子也其の物 津守國助

詞苑雜下 天の川をさうとほじと根を子也其の物 天の川をさうとほじと根を子也其の物 津守國助

千載神祇 天の川をさうとほじと根を子也其の物 天の川をさうとほじと根を子也其の物 津守國助

新古今集 天の川をさうとほじと根を子也其の物 天の川をさうとほじと根を子也其の物 津守國助

三葉枝

後拾遺送旅

新十載雜上

新後古今秋

同冬

あまの山ゆふあふれを後夜神ふあつらふあまのまゝ
津國のむあのみあつらふ馬あつらふあまのまゝ
くれ約をあつらふあまのまゝあつらふあまのまゝ
ありまのあつらふあまのまゝあつらふあまのまゝ

阿久乃刀川

同

拾遺卷五

金葉恋下

あまの山ゆふあふれを後夜神ふあつらふあまのまゝ
津國のむあのみあつらふ馬あつらふあまのまゝ
くれ約をあつらふあまのまゝあつらふあまのまゝ
ありまのあつらふあまのまゝあつらふあまのまゝ

蘆屋

神原里

同 光原郡

後拾遺旅

十載恋四

新古今夏

同雜中

同

新勅撰旅

同雜

後拾遺秋中

あまの山ゆふあふれを後夜神ふあつらふあまのまゝ
津國のむあのみあつらふ馬あつらふあまのまゝ
くれ約をあつらふあまのまゝあつらふあまのまゝ
ありまのあつらふあまのまゝあつらふあまのまゝ

定家

同恋五

後古今春上

同秋上

同恋二

同雜下

後拾遺夏

同夏

同秋上

同雜上

あまの山ゆふあふれを後夜神ふあつらふあまのまゝ
津國のむあのみあつらふ馬あつらふあまのまゝ
くれ約をあつらふあまのまゝあつらふあまのまゝ
ありまのあつらふあまのまゝあつらふあまのまゝ

定家

新後撰夏

同恋一

あまの山ゆふあふれを後夜神ふあつらふあまのまゝ
津國のむあのみあつらふ馬あつらふあまのまゝ
くれ約をあつらふあまのまゝあつらふあまのまゝ
ありまのあつらふあまのまゝあつらふあまのまゝ

定家

同難上 金のふとて秋のふとて... 前内大臣実
後千載難上 若くもれあとのほら秋僧舟のほら波よまをさるる 後人不知
後後拾遺下 若くもれあとのほら波よまをさるる 津守国定

同難上 若くもれあとのほら波よまをさるる 津守国定

新千載冬 若くもれあとのほら波よまをさるる 津守国定

同難秋 若くもれあとのほら波よまをさるる 津守国定

同秋下 若くもれあとのほら波よまをさるる 津守国定

同秋下 若くもれあとのほら波よまをさるる 津守国定

詞在悲下 若くもれあとのほら波よまをさるる 津守国定

後千載春上 若くもれあとのほら波よまをさるる 津守国定

同神祇 若くもれあとのほら波よまをさるる 津守国定

後後拾遺下 若くもれあとのほら波よまをさるる 津守国定

同難中 若くもれあとのほら波よまをさるる 津守国定

後後拾遺上 若くもれあとのほら波よまをさるる 津守国定

新千載春上 若くもれあとのほら波よまをさるる 津守国定

新千載春上 若くもれあとのほら波よまをさるる 津守国定

新千載春上 若くもれあとのほら波よまをさるる 津守国定

若くもれあとのほら波よまをさるる

津守国定

津守国定

津守国定

津守国定

津守国定

津守国定

津守国定

津守国定

津守国定

津守国定

津守国定

津守国定

津守国定

津守国定

津守国定

津守国定

津守国定

津守国定

津守国定

津守国定

津守国定

津守国定

津守国定

津守国定

津守国定

津守国定

津守国定

津守国定

津守国定

津守国定

玉葉神哉

揚花ちりるん後ぬかふを松ふららるるを

二行とあひらの大ぬ祇の九行とちん 詞書畧之

安陪市 駿河 安部郡

新後拾遺 安陪市 駿河 安部郡 日慈為明

足柄用山 相模

後拾遺 足柄の宮の光を於人をもとむるを

新勅撰 新勅撰 新勅撰 新勅撰 新勅撰 新勅撰 新勅撰 新勅撰 新勅撰 新勅撰

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同恋二

善相山とてに守つあふらぬ園のあふらぬに年とる方 在原元方

同

あふらぬ園は流石に清水とてふふ習ひとるまれ 後人不知

同

あふらぬのゆふ付鳥と我とく人やあふらぬを此の鳴流 同

同恋三

あふらぬのゆふ付鳥と我とく人やあふらぬを此の鳴流 同

同恋四

あふらぬのゆふ付鳥と我とく人やあふらぬを此の鳴流 同

同雑下

あふらぬのゆふ付鳥と我とく人やあふらぬを此の鳴流 同

同雑躰

あふらぬのゆふ付鳥と我とく人やあふらぬを此の鳴流 同

同減多

あふらぬのゆふ付鳥と我とく人やあふらぬを此の鳴流 同

後撰恋

あふらぬのゆふ付鳥と我とく人やあふらぬを此の鳴流 同

同恋二

あふらぬのゆふ付鳥と我とく人やあふらぬを此の鳴流 同

同恋三

あふらぬのゆふ付鳥と我とく人やあふらぬを此の鳴流 同

同

あふらぬのゆふ付鳥と我とく人やあふらぬを此の鳴流 同

同

あふらぬのゆふ付鳥と我とく人やあふらぬを此の鳴流 同

同

あふらぬのゆふ付鳥と我とく人やあふらぬを此の鳴流 同

同

あふらぬのゆふ付鳥と我とく人やあふらぬを此の鳴流 同

同恋五

あふらぬのゆふ付鳥と我とく人やあふらぬを此の鳴流 同

同

あふらぬのゆふ付鳥と我とく人やあふらぬを此の鳴流 同

同返

あふらぬのゆふ付鳥と我とく人やあふらぬを此の鳴流 同

同

あふらぬのゆふ付鳥と我とく人やあふらぬを此の鳴流 同

同返

あふらぬのゆふ付鳥と我とく人やあふらぬを此の鳴流 同

同恋六

あふらぬのゆふ付鳥と我とく人やあふらぬを此の鳴流 同

同

あふらぬのゆふ付鳥と我とく人やあふらぬを此の鳴流 同

同雜一

あふらぬのゆふ付鳥と我とく人やあふらぬを此の鳴流 同

同雜二

あふらぬのゆふ付鳥と我とく人やあふらぬを此の鳴流 同

同別

あふらぬのゆふ付鳥と我とく人やあふらぬを此の鳴流 同

拾遺秋

あふらぬのゆふ付鳥と我とく人やあふらぬを此の鳴流 同

同

あふらぬのゆふ付鳥と我とく人やあふらぬを此の鳴流 同

同別

あふらぬのゆふ付鳥と我とく人やあふらぬを此の鳴流 同

善相山とてに守つ

在原元方

在原元方

後人不知

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

春院善綱

後人不知

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同恋一

同恋二

同恋三

同恋四

同恋五

同戀

同別

同恋一

同恋二

同恋三

同秋上

同戀

同戀

不れとる人の名あふさる此実ち人の形露成らん 賀茂重保

戀やうてあふはばあふ返やせ成り果の国とぬらん 友永家基

あふ返のふとあふし中もれとせやうせぬと瀬より 後人不知

古と遊みてしうあふはさるる今中此國うん 友永經衡

あふさるるあふさる此國あふ今を照るあふせぬ 東三条院

當のあふさるるあふさるあふさるあふさるあふさる 大上天王

あふ返やせぬのたをあふさるあふさるあふさるあふさる 官内

あふ返のふとあふさるあふさるあふさるあふさるあふさる 兼補

あふさるるあふさるあふさるあふさるあふさるあふさる 謙徳谷花之氏

あふさるるあふさるあふさるあふさるあふさるあふさる 高倉院

あふさるるあふさるあふさるあふさるあふさるあふさる 後京極

あふさるるあふさるあふさるあふさるあふさるあふさる 同

あふさるるあふさるあふさるあふさるあふさるあふさる 友永親進

あふさるるあふさるあふさるあふさるあふさるあふさる 法人不知

あふさるるあふさるあふさるあふさるあふさるあふさる 権大納言院

あふさるるあふさるあふさるあふさるあふさるあふさる 祝部成茂

あふさるるあふさるあふさるあふさるあふさるあふさる 都茅門院

あふさるるあふさるあふさるあふさるあふさるあふさる 法永華清

あふさるるあふさるあふさるあふさるあふさるあふさる 前園白

あふさるるあふさるあふさるあふさるあふさるあふさる 正三位家

あふさるるあふさるあふさるあふさるあふさるあふさる 大元口具

あふさるるあふさるあふさるあふさるあふさるあふさる 友永光信

あふさるるあふさるあふさるあふさるあふさるあふさる 平盛盛下

あふさるるあふさるあふさるあふさるあふさるあふさる 友永孝光

あふさるるあふさるあふさるあふさるあふさるあふさる 友永時朝

あふさるるあふさるあふさるあふさるあふさるあふさる 廣壁門院

あふさるるあふさるあふさるあふさるあふさるあふさる 後三条院

あふさるるあふさるあふさるあふさるあふさるあふさる 前園白元

あふさるるあふさるあふさるあふさるあふさるあふさる 僧都源信

同尺教

同冬

同

同

同

同

同

同雜別

西のまん又と遊坂とれめととつるまにまのまうあふんま

為家

同

かふあうととをたれんあふ坂の園中をまを人そ別所

源俊頼
寂蓮法師

同

あふらう坂あふふ里の坂園中をまを思ふ白川のま

友原隆経

同

まうとや都を直しあふま此園のあふふあ人のふ

中納言雅忠
侍従行家

同

はまそとをまはしあふまの山に秋のまをまあやう

定家

同

あふ坂の園のあふま此のまをまあやうあふまのま

前右大臣忠
時九

同

あふ坂の園のあふま此のまをまあやうあふまのま

左京大夫
衣笠内大臣

同

あふ坂の園のあふま此のまをまあやうあふまのま

如於法師
右平景雄

同

あふ坂の園のあふま此のまをまあやうあふまのま

賀茂重保

同

あふ坂の園のあふま此のまをまあやうあふまのま

権中納言
源兼光

同

あふ坂の園のあふま此のまをまあやうあふまのま

源兼光
源俊頼

同

あふ坂の園のあふま此のまをまあやうあふまのま

源俊頼
源兼光

同

あふ坂の園のあふま此のまをまあやうあふまのま

源俊頼
源兼光

同

あふ坂の園のあふま此のまをまあやうあふまのま

源俊頼
源兼光

同

あふ坂の園のあふま此のまをまあやうあふまのま

源俊頼
源兼光

同

あふ坂の園のあふま此のまをまあやうあふまのま

源俊頼
源兼光

同

あふ坂の園のあふま此のまをまあやうあふまのま

源俊頼
源兼光

同

あふ坂の園のあふま此のまをまあやうあふまのま

源俊頼
源兼光

同

あふ坂の園のあふま此のまをまあやうあふまのま

源俊頼
源兼光

同雜下

王業秋下

同旅

同

同

同恋一

同

後千載冬

同旅

同

同

同恋二

同

同雜上

同

同

同秋上

同別

同

同

同

同

同

同恋二

同

同

同

同

多坂の美事とわくそかきしつもの行るるたて此の

あつてやの松たかゆんあふさうれまわくやれ松の夕暮

あふさうれまわくやれ松の夕暮

あふさうれまわくやれ松の夕暮

あふさうれまわくやれ松の夕暮

あふさうれまわくやれ松の夕暮

あふさうれまわくやれ松の夕暮

あふさうれまわくやれ松の夕暮

あふさうれまわくやれ松の夕暮

あふさうれまわくやれ松の夕暮

あふさうれまわくやれ松の夕暮

あふさうれまわくやれ松の夕暮

あふさうれまわくやれ松の夕暮

あふさうれまわくやれ松の夕暮

あふさうれまわくやれ松の夕暮

あふさうれまわくやれ松の夕暮

あふさうれまわくやれ松の夕暮

あふさうれまわくやれ松の夕暮

あふさうれまわくやれ松の夕暮

あふさうれまわくやれ松の夕暮

あふさうれまわくやれ松の夕暮

あふさうれまわくやれ松の夕暮

あふさうれまわくやれ松の夕暮

あふさうれまわくやれ松の夕暮

あふさうれまわくやれ松の夕暮

あふさうれまわくやれ松の夕暮

あふさうれまわくやれ松の夕暮

あふさうれまわくやれ松の夕暮

源兼光

源兼光

源兼光

源兼光

源兼光

源兼光

源兼光

源兼光

源兼光

源兼光

源兼光

源兼光

源兼光

源兼光

源兼光

源兼光

源兼光

源兼光

源兼光

源兼光

源兼光

源兼光

源兼光

源兼光

源兼光

源兼光

源兼光

源兼光

同

同恋四

同

同雜上

同

同雜中

新後拾遺

同秋上

同雜春

同雜秋

同別

同旅

同

同

同

同

同

同

同恋三

同恋四

同

同

同雜上

新後支上秋

同秋下

同旅

同恋三

同

同

同恋三

同

同

同

同

お取の西ふ付もも心もよ又もこもへも園ちるめよ 義詮

うも力よ心も之媛うお取の中へも別家と成れ 為若

然てと悔しるりりりあ取の室ら何ふも 権中納言經

遠坂の園おもももささくもいも道と 定女

約年とささく取もももも園ちのももも 使令不知

おささきもは取もももも別家と成坂の園ももも 野宮正大臣

湖海やももももももももももももももももも 源氏経賢

あももも園の取村者あもももももももももももも 定家

遠坂の室もももももももももももももももももも 侍賢門院

町しあももももももももももももももももももも 法下頼俊

さるももももももももももももももももももももも 後政大臣

外也ももももももももももももももももももももも 順徳院

越てお取の下もももももももももももももももももも 平政大臣

名のももももももももももももももももももももも 後照院園白

名もももももももももももももももももももももも 太政大臣

名もももももももももももももももももももももも 前園白首

名もももももももももももももももももももももも 式部内侍

名もももももももももももももももももももももも 源氏経賢

名もももももももももももももももももももももも 前園白首

名もももももももももももももももももももももも 大江宗秀

名もももももももももももももももももももももも 宜秋院

名もももももももももももももももももももももも 権大納言

名もももももももももももももももももももももも 源頼朝

名もももももももももももももももももももももも 源義将朝臣

名もももももももももももももももももももももも 太宰権師

名もももももももももももももももももももももも 式部卿

名もももももももももももももももももももももも 境空

名もももももももももももももももももももももも 前入道

名もももももももももももももももももももももも 太宰権師

名もももももももももももももももももももももも 権大納言

名もももももももももももももももももももももも 賀茂保憲

名もももももももももももももももももももももも 道高

名もももももももももももももももももももももも 平貞国

名もももももももももももももももももももももも

名もももももももももももももももももももももも

夏雜草

後撰別

拾遺恋心

又後夏恋心

金葉恋上

千載恋而

新夏恋

同

新秋撰雜

後拾遺恋

後千載恋

後後撰恋

同

同恋二

有明山

後夏恋

風雅及

後後撰恋

新後撰秋上

後後拾遺恋

同恋四

新千載恋

新拾遺春上

同恋三

安積

新千載恋

安積

山沼 延喜式安積郡今序浅香

陸奥

安積郡

下野

安積郡

夏晴ぬ浅草の心あさきや人の心致みてまやまめ

信のちり浅草恋心ももつれはれ煙の影いやあつん

つらき我恋やまへん我の報あさきの山嶽乃煙成る

あはれさあさき野らふ草草る煙の裡もくぬ道と

信のちりあさきまへんまふま煙をまを人のまをま

佐よちやあさきまへんまふま煙をまを人のまをま

馬路もよあさき山嶽の煙もまへんまをま

まのちりあさきの山嶽乃煙もまへんまをま

煙をまあさきのまへんまをま煙をまをま

まゆふあさきのまへんまをま煙をまをま

恋心とまへんまをま煙をまをま

新拾遺恋心 恋心とまへんまをま煙をまをま

同 恋心とまへんまをま煙をまをま

世とまへんまをま煙をまをま

有明山 信濃

加さるる家もまへんまをま煙をまをま

まをまあさきのまへんまをま煙をまをま

浅草野 同

恋のあさきのまへんまをま煙をまをま

ゆふれあさきのまへんまをま煙をまをま

恋のあさきのまへんまをま煙をまをま

うさきあさきのまへんまをま煙をまをま

恋のあさきのまへんまをま煙をまをま

まをまあさきのまへんまをま煙をまをま

つゆあさきのまへんまをま煙をまをま

安積 下野 安積郡

安積 山沼 延喜式安積郡今序浅香

陸奥 安積郡

下野 安積郡

安積 山沼 延喜式安積郡今序浅香

陸奥 安積郡

下野 安積郡

源家長朝臣

源家長朝臣

源家長朝臣

源家長朝臣

源家長朝臣

源家長朝臣

源家長朝臣

源家長朝臣

源家長朝臣

源家長朝臣

源家長朝臣

源家長朝臣

源家長朝臣

源家長朝臣

源家長朝臣

源家長朝臣

源家長朝臣

源家長朝臣

源家長朝臣

源家長朝臣

源家長朝臣

源家長朝臣

源家長朝臣

源家長朝臣

源家長朝臣

源家長朝臣

源家長朝臣

源家長朝臣

源家長朝臣

源家長朝臣

源家長朝臣

源家長朝臣

源家長朝臣

源家長朝臣

源家長朝臣

古今序

あささしおのりふみゆかしの野の遠く八人を思ふものこそうねり

同恋四

陸奥のあささしの野の花うつろふ人毎に言やれん 浅人不知

後拾遺夏

あささしおのりふみゆかしの野の遠く八人を思ふものこそうねり

金葉夏

高浦草ひくことたぬむね根ひくえはのほよしん 藤原若善

同雜上

はし中よ思ふは陸奥の春候のほよしん 藤原若善

新古今

野のほよしんは陸奥の春候のほよしん 藤原若善

新勅撰後

たの我こいふしあささしおのりふみゆかしの野の遠く八人を思ふものこそうねり

後夏恋

あささしおのりふみゆかしの野の遠く八人を思ふものこそうねり

同

あささしおのりふみゆかしの野の遠く八人を思ふものこそうねり

同雜下

あささしおのりふみゆかしの野の遠く八人を思ふものこそうねり

後千載

あささしおのりふみゆかしの野の遠く八人を思ふものこそうねり

同恋二

あささしおのりふみゆかしの野の遠く八人を思ふものこそうねり

同恋三

あささしおのりふみゆかしの野の遠く八人を思ふものこそうねり

後後拾遺恋

あささしおのりふみゆかしの野の遠く八人を思ふものこそうねり

同恋二

あささしおのりふみゆかしの野の遠く八人を思ふものこそうねり

新撰古今恋

あささしおのりふみゆかしの野の遠く八人を思ふものこそうねり

後撰雜別

あささしおのりふみゆかしの野の遠く八人を思ふものこそうねり

阿武隈川

同

古今大系

あささしおのりふみゆかしの野の遠く八人を思ふものこそうねり

後撰恋

あささしおのりふみゆかしの野の遠く八人を思ふものこそうねり

同恋二

あささしおのりふみゆかしの野の遠く八人を思ふものこそうねり

金葉雜上

あささしおのりふみゆかしの野の遠く八人を思ふものこそうねり

詞花賀

あささしおのりふみゆかしの野の遠く八人を思ふものこそうねり

新古今

あささしおのりふみゆかしの野の遠く八人を思ふものこそうねり

同返

あささしおのりふみゆかしの野の遠く八人を思ふものこそうねり

同雜

あささしおのりふみゆかしの野の遠く八人を思ふものこそうねり

新後撰恋

あささしおのりふみゆかしの野の遠く八人を思ふものこそうねり

同

あささしおのりふみゆかしの野の遠く八人を思ふものこそうねり

玉葉恋

あささしおのりふみゆかしの野の遠く八人を思ふものこそうねり

阿武隈川

同

古今大系

あささしおのりふみゆかしの野の遠く八人を思ふものこそうねり

後撰恋

あささしおのりふみゆかしの野の遠く八人を思ふものこそうねり

同恋二

あささしおのりふみゆかしの野の遠く八人を思ふものこそうねり

金葉雜上

あささしおのりふみゆかしの野の遠く八人を思ふものこそうねり

詞花賀

あささしおのりふみゆかしの野の遠く八人を思ふものこそうねり

新古今

あささしおのりふみゆかしの野の遠く八人を思ふものこそうねり

同返

あささしおのりふみゆかしの野の遠く八人を思ふものこそうねり

同雜

あささしおのりふみゆかしの野の遠く八人を思ふものこそうねり

新後撰恋

あささしおのりふみゆかしの野の遠く八人を思ふものこそうねり

同

あささしおのりふみゆかしの野の遠く八人を思ふものこそうねり

玉葉恋

あささしおのりふみゆかしの野の遠く八人を思ふものこそうねり

新千載旅

あけし後天如地経をみたりさうるを思ふもゆい後の旅よ

赤門院制

新拾遺春上

あつちのほこりもつれぬるのよきつれ

後鳥羽院

同秋下

あつちのほこりもつれぬるのよきつれ

大宰大貳

新後古今春

あつちのほこりもつれぬるのよきつれ

宝徳院贈

同秋下

あつちのほこりもつれぬるのよきつれ

定家

同冬

あつちのほこりもつれぬるのよきつれ

前中納言

同

あつちのほこりもつれぬるのよきつれ

藤原雅頭

同

あつちのほこりもつれぬるのよきつれ

祝部成胤

同

あつちのほこりもつれぬるのよきつれ

祝部成胤

玉葉賀

あつちのほこりもつれぬるのよきつれ

前中納言

金葉恋下

あつちのほこりもつれぬるのよきつれ

太宰大貳

千載恋二

あつちのほこりもつれぬるのよきつれ

権中納言

後古今春二

あつちのほこりもつれぬるのよきつれ

大納言

新後古今春

あつちのほこりもつれぬるのよきつれ

後鳥羽院

新古今雜上

あつちのほこりもつれぬるのよきつれ

後鳥羽院

後千載哀傷人

あつちのほこりもつれぬるのよきつれ

法皇御製

新後拾遺恋

あつちのほこりもつれぬるのよきつれ

道長法師

飽等演

あつちのほこりもつれぬるのよきつれ

道長法師

新拾遺恋

あつちのほこりもつれぬるのよきつれ

後鳥羽院

古今雜上

あつちのほこりもつれぬるのよきつれ

後鳥羽院

拾遺恋五

あつちのほこりもつれぬるのよきつれ

後鳥羽院

金葉冬

あつちのほこりもつれぬるのよきつれ

源兼昌

新古今春上

あつちのほこりもつれぬるのよきつれ

後鳥羽院

同秋下

あつちのほこりもつれぬるのよきつれ

後鳥羽院

同雜上

あつちのほこりもつれぬるのよきつれ

後鳥羽院

新古今雜上

あつちのほこりもつれぬるのよきつれ

後鳥羽院

同

あつちのほこりもつれぬるのよきつれ

後鳥羽院

同

あつちのほこりもつれぬるのよきつれ

後鳥羽院

後古今雜下

那波之浦の浦にまきとる後とて候との浦にたふり候

後人不知

後古今雜中

淡路の浦にまきとる浦にたふり候との浦にたふり候

前大納言忠

後拾遺春上

浦にたふり候との浦にたふり候との浦にたふり候

中納言宗

同夏

あまの浦にまきとる浦にたふり候との浦にたふり候

前内大臣基

新後撰冬

浦にたふり候との浦にたふり候との浦にたふり候

前大納言雅

玉葉春上

那波の浦にまきとる浦にたふり候との浦にたふり候

前僧正

同秋下

那波の浦にまきとる浦にたふり候との浦にたふり候

淡泉前大臣

同冬

あまの浦にまきとる浦にたふり候との浦にたふり候

家隆

同

あまの浦にまきとる浦にたふり候との浦にたふり候

前大納言

後撰秋下

淡路の浦にまきとる浦にたふり候との浦にたふり候

前大納言

凡雅雜上

あまの浦にまきとる浦にたふり候との浦にたふり候

藤原宗

新十載秋下

あまの浦にまきとる浦にたふり候との浦にたふり候

後照会院

同雜中

あまの浦にまきとる浦にたふり候との浦にたふり候

前大納言

新拾遺雜中

あまの浦にまきとる浦にたふり候との浦にたふり候

花園院

新後拾遺

あまの浦にまきとる浦にたふり候との浦にたふり候

前大納言

同雜上

あまの浦にまきとる浦にたふり候との浦にたふり候

淡守貞

新後古今整下

あまの浦にまきとる浦にたふり候との浦にたふり候

前大納言

同卷五

あまの浦にまきとる浦にたふり候との浦にたふり候

山辺亦人

同卷上

あまの浦にまきとる浦にたふり候との浦にたふり候

是道前左大臣

淡路

あまの浦にまきとる浦にたふり候との浦にたふり候

光明寺

同

あまの浦にまきとる浦にたふり候との浦にたふり候

藤原隆祐

新拾遺雜上

あまの浦にまきとる浦にたふり候との浦にたふり候

毛長督基

新後古今冬

あまの浦にまきとる浦にたふり候との浦にたふり候

兵衛守

同卷四

あまの浦にまきとる浦にたふり候との浦にたふり候

後人不知

新古今雜上

あまの浦にまきとる浦にたふり候との浦にたふり候

所恒

阿野川

あまの浦にまきとる浦にたふり候との浦にたふり候

淡路阿野郡

後拾遺冬

あまの浦にまきとる浦にたふり候との浦にたふり候

藤原善善

阿波浦

あまの浦にまきとる浦にたふり候との浦にたふり候

同

新後撰雜

同雜中

玉葉秋

同雜二

同雜四

後千載整

同表傷

同賀

後後於送賀

同雜上

同雅整

同秋下

同雜中

同雜下

同

同

同

同

同

同

新後撰

同表傷

同雜上

同

後百今冬

金葉夏

新勅撰

あつし世のつる涙のあそびを今もさるく道はく原

今よりそまゝのつるくおれはとてさるるかまもあし

猪人のあそびを交わしあそびはのあそびはあそびのあそ

かまのあそびは子月つるあそびの江都はくはあそびのあ

二とるのあそびをれはあそびのあそびのあそびのあそ

泣ひとほしあそびのあそびのあそびのあそびのあそ

梅ぬしあそびのあそびのあそびのあそびのあそ

あそびのあそびのあそびのあそびのあそびのあそ

さるのあそびのあそびのあそびのあそびのあそ

巨のあそびのあそびのあそびのあそびのあそ

いともあそびのあそびのあそびのあそびのあそ

あそびのあそびのあそびのあそびのあそびのあそ

あそびのあそびのあそびのあそびのあそびのあそ

あそびのあそびのあそびのあそびのあそびのあそ

あそびのあそびのあそびのあそびのあそびのあそ

あそびのあそびのあそびのあそびのあそびのあそ

あそびのあそびのあそびのあそびのあそびのあそ

あそびのあそびのあそびのあそびのあそびのあそ

あそびのあそびのあそびのあそびのあそびのあそ

あそびのあそびのあそびのあそびのあそびのあそ

あそびのあそびのあそびのあそびのあそびのあそ

あそびのあそびのあそびのあそびのあそびのあそ

あそびのあそびのあそびのあそびのあそびのあそ

あそびのあそびのあそびのあそびのあそびのあそ

あそびのあそびのあそびのあそびのあそびのあそ

あそびのあそびのあそびのあそびのあそびのあそ

あそびのあそびのあそびのあそびのあそびのあそ

あそびのあそびのあそびのあそびのあそびのあそ

あそびのあそびのあそびのあそびのあそびのあそ

あそびのあそびのあそびのあそびのあそびのあそ

あそびのあそびのあそびのあそびのあそびのあそ

あそびのあそびのあそびのあそびのあそびのあそ

あそびのあそびのあそびのあそびのあそびのあそ

あそびのあそびのあそびのあそびのあそびのあそ

あそびのあそびのあそびのあそびのあそびのあそ

あそびのあそびのあそびのあそびのあそびのあそ

あそびのあそびのあそびのあそびのあそびのあそ

あそびのあそびのあそびのあそびのあそびのあそ

あそびのあそびのあそびのあそびのあそびのあそ

あそびのあそびのあそびのあそびのあそびのあそ

あそびのあそびのあそびのあそびのあそびのあそ

同神祇

新勅撰雜

同雜四

後支う秋下

同冬

同

後拾遺冬

新撰撰雜中

玉葉春三

同冬

同恋三

後千載雜中

同神祇

同賀

後後拾遺冬

同雜上

同雜下

新千載秋下

同尺教

同恋三

同雜中

同

同

新拾遺冬

同賀

同神祇

同雜上

同雜下

新後拾遺下

きすつら針のちやまひつらじきては波きつら川の

さふらの折れおま流ふらうふあふらふのそり糸

くも鳴さけの川の馬さゆき流うちらじつら透りん

るるさふらふ... 家持

吹風さふらふ... 家持

群たて... 為氏

あつらふ... 為氏

ほじふ... 為氏

おわり... 為氏

佐保川... 為氏

千鳥... 為氏

佐保山の... 為氏

ねり... 為氏

世... 為氏

あつらふ... 為氏

あつらふ... 為氏

沈む... 為氏

さう... 為氏

終... 為氏

あつらふ... 為氏

あつらふ... 為氏

あつらふ... 為氏

あつらふ... 為氏

あつらふ... 為氏

あつらふ... 為氏

あつらふ... 為氏

あつらふ... 為氏

あつらふ... 為氏

あつらふ... 為氏

あつらふ... 為氏

入道前園百

太政大臣

藤原基経

家持

家持

為氏

為氏

為氏

為氏

為氏

為氏

為氏

為氏

為氏

為氏

為氏

為氏

為氏

為氏

為氏

為氏

為氏

為氏

為氏

為氏

為氏

為氏

為氏

為氏

為氏

新撰古今諸... 同秋下... 同... 同雜中
も... 錦... 今... 徳...
大和 添上郡

拾遺物名... 同哀傷... 佐野渡
... 徳...

新古今冬... 新勅撰... 新後...
... 津守國助

新拾遺... 古今恋上... 拾遺夏
... 源家長

後撰雜... 櫻宮... 伊勢
... 志峯

後古今神祇... 佐夜中山... 遠江
... 西行法師

古... 後撰恋... 千載...
... 権律所

同... 同... 同...
... 生志峯

同... 同... 同...
... 家隆

同... 同... 同...
... 有家
西行法師

新勅撰雜

後撰撰錄

後撰撰錄

同

同

同

新撰撰錄

同

同

同

同

同

同

後撰撰錄

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

家隆
蓮生法師

家隆
本義推經

家隆
中尊親王

家隆
中尊親王

家隆
中尊親王

家隆
中尊親王

家隆
中尊親王

家隆
中尊親王

家隆
中尊親王

家隆
中尊親王

家隆
中尊親王

家隆
中尊親王

家隆
中尊親王

家隆
中尊親王

家隆
中尊親王

家隆
中尊親王

家隆
中尊親王

家隆
中尊親王

家隆
中尊親王

家隆
中尊親王

家隆
中尊親王

家隆
中尊親王

家隆
中尊親王

家隆
中尊親王

家隆
中尊親王

家隆
中尊親王

家隆
中尊親王

家隆
中尊親王

同
同卷三

御文の道と思ひ給のゆめおそくさよの申山 法華義堂
泳めぬかゝるのちをさつれもて 櫻明の山よの申山 源保經

指出強

甲斐

古今贊

新後撰首

王業文

新十載

後の山さしての藤は色千名をさすよもさくひの世とさすく 後不知
藤乃心物其藤の枝の月八の世もさくひの世とさすく 前奥言 推
さよの世とさくひの藤は色千名をさすよもさくひの世とさすく 藤乃心物
さよの世とさくひの藤は色千名をさすよもさくひの世とさすく 藤乃心物
さよの世とさくひの藤は色千名をさすよもさくひの世とさすく 藤乃心物

狭山

武蔵 一説河内

千載夏

後古今恋

新後撰

櫻川

常陸

けひのうらと春ふあれた梅川花の波さくはさくさすめ貫之

樂の波部

出江 滋賀郡

法性寺入道 前太政大臣

千載雜上

更級 山川里

信濃 更級郡

古今雜上

拾遺別

後拾遺雜上

千載秋上

同

新古今恋

同

新初撰秋上

同秋下

同雜四

後古今戀上

同秋下

後拾遺秋下

新後撰秋上

わささあな藤乃さくひあや焼山よて藤乃さくひ 後不知
月氣あさみたるさくひあれたの藤乃さくひあや焼山よて藤乃さくひ 後不知
向ともや焼山よの月さくひあれたの藤乃さくひあや焼山よて藤乃さくひ 後不知
乃さくひあや焼山よの月さくひあれたの藤乃さくひあや焼山よて藤乃さくひ 後不知
乃さくひあや焼山よの月さくひあれたの藤乃さくひあや焼山よて藤乃さくひ 後不知
乃さくひあや焼山よの月さくひあれたの藤乃さくひあや焼山よて藤乃さくひ 後不知
乃さくひあや焼山よの月さくひあれたの藤乃さくひあや焼山よて藤乃さくひ 後不知
乃さくひあや焼山よの月さくひあれたの藤乃さくひあや焼山よて藤乃さくひ 後不知
乃さくひあや焼山よの月さくひあれたの藤乃さくひあや焼山よて藤乃さくひ 後不知
乃さくひあや焼山よの月さくひあれたの藤乃さくひあや焼山よて藤乃さくひ 後不知

同の言とさくひあや焼山よの月さくひあれたの藤乃さくひあや焼山よて藤乃さくひ 後不知

後千載秋下月夜さき多ししるや姨姪やまの末れおらて 鎌倉在臣

後後拾遺秋下しるよきや姨姪のしりしるを材のしりしるさくん 祝部成茂

同難上 志方のありさるれあききぬ列を終るおふ之料の重 津守国助

新十載秋上 秋のね又とあひたりんを盡さるるさくは 後成

新拾遺秋上 さりよき姨姪やまのねを更しおはるる涙なまきり 三条道長

新後拾遺秋上 しるよきや姨姪のしりしるは只秋有御家の上は 後三条院

新後古今整 さる科や姨姪のありさるとおひちりしるさくを 源有宗

佐野 舟橋 中

上野

後撰恋三 舟橋がまそのこ里ひやくをを新人のそは 源朝臣

詞花雜上 ゆふきよ佐野の舟橋もゆかりたる舟橋のぬきを 在舟後賢

千載恋四 佐野舟橋の舟橋は終しるるを終るる舟橋のぬきを 源仲徳

後古今今夏 舟橋の舟橋の舟橋は終しるるを終るる舟橋のぬきを 成法師

同恋 あつらふ佐野の舟橋の舟橋は終しるるを終るる舟橋のぬきを 家隆

後拾遺恋三 舟橋の舟橋の舟橋は終しるるを終るる舟橋のぬきを 津守国助

新十載恋五 しるよきや姨姪のしりしるは只秋有御家の上は 前大僧正

佐波石湯

陸奥

捨込物名 あくして別し人の行里まをこきよあのみゆる山のありさく 浪人不知

酒井村

丹波

大書會主葉方 八隅知りしるるの舟橋やうらけり舟橋のぬきをさるる 匡房

小竹嶋

石見

後拾遺秋下 舟橋やうらけり舟橋のぬきをさるる舟橋のぬきを 右奥内督

後後拾遺春上 舟橋のぬきをさるる舟橋のぬきをさるる舟橋のぬきを 權綱言書

佐野岩

紀伊

又新後拾遺冬 舟橋のぬきをさるる舟橋のぬきをさるる舟橋のぬきを 光明寺

後古今冬 舟橋のぬきをさるる舟橋のぬきをさるる舟橋のぬきを 通前政左

玉蕨旅 舟橋のぬきをさるる舟橋のぬきをさるる舟橋のぬきを 赤人

里塗

阿波

後拾遺冬 舟橋のぬきをさるる舟橋のぬきをさるる舟橋のぬきを 実方朝臣

新撰撰冬 舟橋のぬきをさるる舟橋のぬきをさるる舟橋のぬきを 余院高倉

後後撰秋中 舟橋のぬきをさるる舟橋のぬきをさるる舟橋のぬきを 蓮生江竹

同壽族

信古今秋上

新修撰卷三

同卷六

後拾遺送春

初十載秋下

新後拾遺冬

後拾遺族

風雅登

古今雜上

合業秋

千載秋

同春下

同冬

新勅撰尺牘

後古今春上

五葉雜三

同尺牘

新拾遺雜中

新拾遺送冬

新後古今冬

新古今神祇

後後撰補祇

同

里の雲れ焼をよみしる藤原春又つめて煙たつる 寂蓮法師

里の雲れ焼をよみしる藤原春又つめて煙たつる 後鳥羽院

里の雲れ焼をよみしる藤原春又つめて煙たつる 左原雅教

里の雲れ焼をよみしる藤原春又つめて煙たつる 法皇書卷

里の雲れ焼をよみしる藤原春又つめて煙たつる 定家

里の雲れ焼をよみしる藤原春又つめて煙たつる 平清時

里の雲れ焼をよみしる藤原春又つめて煙たつる 元可法師

里の雲れ焼をよみしる藤原春又つめて煙たつる 右大臣通俊

里の雲れ焼をよみしる藤原春又つめて煙たつる 衣原基俊

里の雲れ焼をよみしる藤原春又つめて煙たつる 神六江中

里の雲れ焼をよみしる藤原春又つめて煙たつる 前々院兼

里の雲れ焼をよみしる藤原春又つめて煙たつる 後成

里の雲れ焼をよみしる藤原春又つめて煙たつる 権中納言信

里の雲れ焼をよみしる藤原春又つめて煙たつる 高井上人

里の雲れ焼をよみしる藤原春又つめて煙たつる 後京極

里の雲れ焼をよみしる藤原春又つめて煙たつる 權大納言

里の雲れ焼をよみしる藤原春又つめて煙たつる 皇屋入道前

里の雲れ焼をよみしる藤原春又つめて煙たつる 後堀河院

里の雲れ焼をよみしる藤原春又つめて煙たつる 北野 官神

里の雲れ焼をよみしる藤原春又つめて煙たつる 同

里の雲れ焼をよみしる藤原春又つめて煙たつる 小野よりみそなりある

里の雲れ焼をよみしる藤原春又つめて煙たつる 前大僧正

里の雲れ焼をよみしる藤原春又つめて煙たつる 同

里の雲れ焼をよみしる藤原春又つめて煙たつる 定家

里の雲れ焼をよみしる藤原春又つめて煙たつる 同

里の雲れ焼をよみしる藤原春又つめて煙たつる 同

里の雲れ焼をよみしる藤原春又つめて煙たつる 同

里の雲れ焼をよみしる藤原春又つめて煙たつる 同

里の雲れ焼をよみしる藤原春又つめて煙たつる 同

里の雲れ焼をよみしる藤原春又つめて煙たつる 同

里の雲れ焼をよみしる藤原春又つめて煙たつる 同

里の雲れ焼をよみしる藤原春又つめて煙たつる 同

里の雲れ焼をよみしる藤原春又つめて煙たつる 同

白河院の時... 唐後... 後乃...

後天神祇

玉葉神祇

凡雅神祇

新千載神祇

新拾遺神祇

同雜下

新後拾遺神祇

貴布祢川神

山城 後之郡

男よ... 川よ...

後拾遺神祇

同以迄

同

新只之卷三

社司... 舟小...

同神祇

後拾遺神祇

九...

玉葉神祇

新千載神祇

同

新千載神祇

新後拾遺神祇

同

同

同

同卷三

Main handwritten text on the left page, including various entries and notes.

俊成

攝政大臣

曾成幸平

法橋

實成幸平

法皇

三位

等持

源義

尤大

左原

定

丹

同冬

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

法刀の國守波かやいぬよひうききり冬村は新
善光園
前開皇左大臣

美の度まのいあきやうは後得やう通ふ所平徳
今上御察

まきまの磯山徳い引ききり冬まきまの磯山徳い引ききり冬
前中納言

らまきまの磯山徳い引ききり冬まきまの磯山徳い引ききり冬
僧正行志

らまきまの磯山徳い引ききり冬まきまの磯山徳い引ききり冬
俊頼

らまきまの磯山徳い引ききり冬まきまの磯山徳い引ききり冬
院大納言

らまきまの磯山徳い引ききり冬まきまの磯山徳い引ききり冬
眞綱

らまきまの磯山徳い引ききり冬まきまの磯山徳い引ききり冬
後鳥羽院

らまきまの磯山徳い引ききり冬まきまの磯山徳い引ききり冬
平宗宣

らまきまの磯山徳い引ききり冬まきまの磯山徳い引ききり冬
平直時

らまきまの磯山徳い引ききり冬まきまの磯山徳い引ききり冬
枕部成茂

らまきまの磯山徳い引ききり冬まきまの磯山徳い引ききり冬
法永淨伊

らまきまの磯山徳い引ききり冬まきまの磯山徳い引ききり冬
中臣徳直

らまきまの磯山徳い引ききり冬まきまの磯山徳い引ききり冬
法橋光朝

らまきまの磯山徳い引ききり冬まきまの磯山徳い引ききり冬
權律師

らまきまの磯山徳い引ききり冬まきまの磯山徳い引ききり冬
友貞

らまきまの磯山徳い引ききり冬まきまの磯山徳い引ききり冬
前大納言

らまきまの磯山徳い引ききり冬まきまの磯山徳い引ききり冬
能國

らまきまの磯山徳い引ききり冬まきまの磯山徳い引ききり冬
贈信正

らまきまの磯山徳い引ききり冬まきまの磯山徳い引ききり冬
源友経

らまきまの磯山徳い引ききり冬まきまの磯山徳い引ききり冬
後在行

らまきまの磯山徳い引ききり冬まきまの磯山徳い引ききり冬
俊成

らまきまの磯山徳い引ききり冬まきまの磯山徳い引ききり冬
後公余

らまきまの磯山徳い引ききり冬まきまの磯山徳い引ききり冬
前内大臣

らまきまの磯山徳い引ききり冬まきまの磯山徳い引ききり冬
大德言

らまきまの磯山徳い引ききり冬まきまの磯山徳い引ききり冬
橋本村

らまきまの磯山徳い引ききり冬まきまの磯山徳い引ききり冬
來増山

らまきまの磯山徳い引ききり冬まきまの磯山徳い引ききり冬
内江

らまきまの磯山徳い引ききり冬まきまの磯山徳い引ききり冬
滋賀郡

らまきまの磯山徳い引ききり冬まきまの磯山徳い引ききり冬
在比叡山

らまきまの磯山徳い引ききり冬まきまの磯山徳い引ききり冬
客人宮

らまきまの磯山徳い引ききり冬まきまの磯山徳い引ききり冬
同

らまきまの磯山徳い引ききり冬まきまの磯山徳い引ききり冬
同

持遠盛

らまきまの磯山徳い引ききり冬まきまの磯山徳い引ききり冬
同

新古今神祇本中もあはれむ事とまの初らば事と後とみよ
客人の交りとなりきり

後京極

後京極神祇あふ又まをたてや守りぬあはれ根も若れあつ里

客人の交りてたれちりきりてみてよけり

後京極神祇つりくの懸流あやまて山嶽今もつりつり名とちり

客人の権現せ

新撰神祇わさげたのむとゆきまはた意をゆし名のまも山
前禮禮遺書

拾遺書
中よふまをぬれ信の成りては権のぬらやまを源頼光

なる名が片とほ守りて下りつ小まのあつちつあ後

小ぢりといてあかま板のまをちやつて後代なる

白中まをうとあるあひはれあのちねや治政ちりん能目法師

平賀重

後拾遺旅

千載恋四

同難下

後古今春下

後拾遺秋下

同旅

後後拾遺上

同難下

新千載雜上

新拾遺雜上

新後拾遺旅

新後古今雜上

拾遺秋

後拾遺秋上

新後古今上秋

後拾遺旅

世中いかにをちりまはて海峽の信をて我高のて能目法師

家傳

出羽

あふ坂の雲の意とくあまはし山をいつつ三つとつたれ約
大真高遠

くらられけりあまをまをぬてあけらつて三つとつたれ約
正三位知家

遠坂や清水あつりつれをて國次つるつらあめ約
源義経

信濃

切魚

あふ坂の雲の意とくあまはし山をいつつ三つとつたれ約

くらられけりあまをまをぬてあけらつて三つとつたれ約

新古今旅

さすのゆり秋のあけおしはよき旅の記に盡す

吉備中山

備中

あきくたのあき不

顯仲
明臣

夏天子取

海の吹く風の中山のあけおしはよき旅の記に盡す

後拾遺雜三

治之文を人のあけおしはよき旅の記に盡す

金葉春

常のあけおしはよき旅の記に盡す

新古今賀

あけおしはよき旅の記に盡す

新千載別

あけおしはよき旅の記に盡す

紀伊海

紀伊

後古今旅

伊勢海やあけおしはよき旅の記に盡す

玉葉秋下

紀の海やあけおしはよき旅の記に盡す

新古今冬

さる海やあけおしはよき旅の記に盡す

同雜上

木丸殿

純前

後拾遺雜

独のあけおしはよき旅の記に盡す

新古今旅

津海やあけおしはよき旅の記に盡す

金葉雜上

新古今雜中

新勅撰夏

さる海やあけおしはよき旅の記に盡す

企救溪

豊前

後拾遺秋上

あけおしはよき旅の記に盡す

切符巻

赤勅

拾遺賀

あけおしはよき旅の記に盡す

弓柳嵩

大和 城上郡

後古今秋上

あけおしはよき旅の記に盡す

同雜下

穴師川海やあけおしはよき旅の記に盡す

後拾遺春

あけおしはよき旅の記に盡す

凡雅冬

あけおしはよき旅の記に盡す

新後拾遺春

あけおしはよき旅の記に盡す

漸迫思

同

新後拾遺春

あけおしはよき旅の記に盡す

新古今

皇五

玉葉秋下 三の国や此らの邊は月をてぬるやいかにまをさるる也 前因直通推

同様 由良の門や波の末の赤くもぬる月をてぬるやいかにまをさるる也 平政村朝三

後拾遺卷 知るる此の邊をいかにまをさるる月をてぬるやいかにまをさるる也 後鳥羽院

同秋下 由良の門や波の末の赤くもぬる月をてぬるやいかにまをさるる也 源家長朝

新後拾遺卷 浦波の末の赤くもぬる月をてぬるやいかにまをさるる也 奥羽言氏

新後拾遺卷 浦波の末の赤くもぬる月をてぬるやいかにまをさるる也 中官美公衆

同雜上 紀の海や由良の邊の赤くもぬる月をてぬるやいかにまをさるる也 後小松院

後京秋上 治まるとまをさるる月をてぬるやいかにまをさるる也 正位知家

夕景山 未勤

後古今冬 くれくもぬる月をてぬるやいかにまをさるる也 前内直基

新後拾遺卷 ぬる月をてぬるやいかにまをさるる也 前大納言俊

木綿系川 同

後後撰冬 ゆふの月をてぬるやいかにまをさるる也 行念法師

後京冬 ぬる月をてぬるやいかにまをさるる也 家隆

古今恋 志也とぬる月をてぬるやいかにまをさるる也 後人不知

拾遺雜下 ぬる月をてぬるやいかにまをさるる也 任勢

同哀傷 ぬる月をてぬるやいかにまをさるる也 院

金葉雜上 ぬる月をてぬるやいかにまをさるる也 津守国基

千載終上 ぬる月をてぬるやいかにまをさるる也 石原時朝

同賀 ぬる月をてぬるやいかにまをさるる也 源後頼朝

同雜上 ぬる月をてぬるやいかにまをさるる也 兼前太政

同 ぬる月をてぬるやいかにまをさるる也 空内親王

新古今神祇 ぬる月をてぬるやいかにまをさるる也 賀茂羽神

同 ぬる月をてぬるやいかにまをさるる也 国防内侍

同 ぬる月をてぬるやいかにまをさるる也 俊成

後古今神祇 ぬる月をてぬるやいかにまをさるる也 奉天貳高

後拾遺雜上 ぬる月をてぬるやいかにまをさるる也 幸高院式

新後撰夏 ぬる月をてぬるやいかにまをさるる也 鷹司院

同神祇 ぬる月をてぬるやいかにまをさるる也 春座三道

同

玉葉雜

後千載夏

新千載夏

同神祇

新拾遺神祇

同

新後拾遺夏

同

同雜春

同恋二

同神祇

同

新後琴雜

後後恋六

同

後後送夏

千載夏

同恋四

後後揮冬

後拾遺夏

玉葉娘

後千載夏

後後拾遺恋

新千載雜下

同恋四

新後拾遺夏

同夏

さる初し昔は神と云ふはをたむるにの事とありて

を六つと云ふは海まろみはにや川は川の神と云ふ世を

わたりて文海なるをまらけり後や後小文海なる川風

神と云ふは後よ流るるをあらわすを小神と云ふ

神と云ふは川の神と云ふは流るるを流るるを流るるを

ついで神と云ふはとみまじやをまらけりてあらわす

万代と云ふはとみまじやをまらけりてあらわす

はははははははははははははははははははははははは

かまじと云ふは神のまじははははははははははははは

はははははははははははははははははははははははは

雲はははははははははははははははははははははははは

雲はははははははははははははははははははははははは

神の神と云ふははははははははははははははははははは

はははははははははははははははははははははははは

逢事ハ波不ありてと云ふははははははははははははは

みはははははははははははははははははははははははは

みはははははははははははははははははははははははは

山はははははははははははははははははははははははは

夏はははははははははははははははははははははははは

舟はははははははははははははははははははははははは

山はははははははははははははははははははははははは

今はははははははははははははははははははははははは

今はははははははははははははははははははははははは

今はははははははははははははははははははははははは

今はははははははははははははははははははははははは

今はははははははははははははははははははははははは

今はははははははははははははははははははははははは

今はははははははははははははははははははははははは

前大僧正權助

贈後任子

昭訓門院

前大納言

前近衛大將

源和氏

後三位氏久

權中納言

道三昌親三

後人不知

本上天皇

賀茂僧父

正三位隆教

前中納言

後三位僧父

後人不知

同

相摸

右原清輔

從三位賴政

西園寺入道

前大政大臣

源有長

俊成女

順徳院

芬陀利花院

前園島大臣

西行法師

家隆

友不行詮

春議雅經

後条前内

湯倉山

千載雜下
みづのまをみまをそく信民之幸をほしむる後しと云云 源後賴朝臣

山嶽

同 葛野郡

後撰雜二
あしきまを世よ年まててんあゆ幸を結そあつん 醍醐左大臣

山嶽

同 愛宕郡

風雅林祇
久々の名を能き舟傍は道津伏入浦やりのわかれが 賀茂遠又

山嶽

同 相樂郡

古今旅
都そのまをみみの原泉川河川定にし衣をたぬる 後人不知

山嶽

同 兼辨

新古今恋
みこの原のまを流るる泉川のつらねそくをみよる 福丸

山嶽

同 宇治郡

後撰今恋三
ま運のまをみみの原泉川河川定にし衣をたぬる 大織冠

山嶽

同 大和 添上郡

末旅
大原よりまをみみの原泉川河川定にし衣をたぬる 安侍伴海

山嶽

同 貫之

同返
りめのみをみみの原泉川河川定にし衣をたぬる 同

山嶽

同 兼辨朝臣

同雜一
拜するまをみみの原泉川河川定にし衣をたぬる 仲筆法師

山嶽

同 貫之

同雜春
極花みよのまをみみの原泉川河川定にし衣をたぬる 後人不知

山嶽

同 藤原義孝

後拾遺雜二
みよのまをみみの原泉川河川定にし衣をたぬる 和泉式部

山嶽

同 三条前太政大臣

同神祇
みよのまをみみの原泉川河川定にし衣をたぬる 堀川右大臣

山嶽

同 友原兼永

同
みよのまをみみの原泉川河川定にし衣をたぬる 平師季

山嶽

同 權僧正永縁

同
みよのまをみみの原泉川河川定にし衣をたぬる 友原兼辨

山嶽

同 固防内侍

同
みよのまをみみの原泉川河川定にし衣をたぬる 友原兼永

山嶽

同 友原兼永

同
みよのまをみみの原泉川河川定にし衣をたぬる 友原兼永

山嶽

同 友原兼永

同雜上

詞在雜上

同

同

同雜下
千載神祇

千載神祇

新古今恋

同神祇

新勅撰

同賀

同

同恋四

同雜

同

同雜四

後撰撰秋中

同秋下

同神祇

後古今秋下

同賀

同

後撰撰秋上

同雜春

同雜秋

同賀

同恋一

同雜七

同

みづの山神のまゝのちりあきくあまをさるとくまのうたはこ
右宗光

世中とあめいさかきこころもあはれし
少条院

あまの思ひこころんあまの思ひこころん
琳賢法師

あまの思ひこころんあまの思ひこころん
源伸正

あまの思ひこころんあまの思ひこころん
東門院

あまの思ひこころんあまの思ひこころん
藤原義孝

あまの思ひこころんあまの思ひこころん
金道前白

あまの思ひこころんあまの思ひこころん
大政大臣

あまの思ひこころんあまの思ひこころん
正三位知家

あまの思ひこころんあまの思ひこころん
国防内侍

あまの思ひこころんあまの思ひこころん
右大臣行家

あまの思ひこころんあまの思ひこころん
采女明日香

あまの思ひこころんあまの思ひこころん
慈田

あまの思ひこころんあまの思ひこころん
内大臣

あまの思ひこころんあまの思ひこころん
定家母

あまの思ひこころんあまの思ひこころん
京極前

あまの思ひこころんあまの思ひこころん
大政大臣

あまの思ひこころんあまの思ひこころん
源家長

あまの思ひこころんあまの思ひこころん
素後院

あまの思ひこころんあまの思ひこころん
光明寺

あまの思ひこころんあまの思ひこころん
大宰権帥

あまの思ひこころんあまの思ひこころん
後鳥羽院

あまの思ひこころんあまの思ひこころん
金道前

あまの思ひこころんあまの思ひこころん
大政大臣

あまの思ひこころんあまの思ひこころん
冷泉院

あまの思ひこころんあまの思ひこころん
万果小路

あまの思ひこころんあまの思ひこころん
中納言

あまの思ひこころんあまの思ひこころん
前右大臣

同神祇

三輪山を新野とすふれはもまの月もあはれにほむる
この奇もまの日の神も山階寺の金堂よりわく

行きたるとはれはあはれは入るるとちん

秋如くしてこの山をうらなむを夫の下を待たゆへん
もをまの日の神神部よりわく

後小大の神の御奇しくとみけるとちん
京極前南白
家肥後

とまの山の民人の数も通えはとちん
前太政大臣

もろもろの御思へはれとまの山を待たゆへん
刑部卿頼朝

故ちとて天下はあはれとちん
前左大臣

今迄の世にこれとまの山を待たゆへん
中臣祐之

我々もこれとまの山を待たゆへん
冷泉前大臣

みづもこれとまの山を待たゆへん
楠本八九

まの山を待たゆへん
後人不知
三條入道前太
政大臣

新拾遺神祇

とろの山を待たゆへん
夜原長能

同雑中

みづもこれとまの山を待たゆへん
三條入道前大臣

新後拾遺神祇

とろの山を待たゆへん
為藤

同賀

とろの山を待たゆへん
中臣延朝

同雑上

とろの山を待たゆへん
後西園寺入
道前太政大臣

同神祇

とろの山を待たゆへん
藤原為光

同雑下

とろの山を待たゆへん
後人不知

後撰恋三

とろの山を待たゆへん
同

同恋五

とろの山を待たゆへん
伊勢

古く春下

とろの山を待たゆへん
貫之

拾送雜上

同

同雜恋

後拾送恋三

同

同雜二

金兼冬

同恋下

十載春上

同

同恋三

同神祇

同

新嘉別

同

同神祇

同

同恋一

同神祇

同

同恋五

同雜中

後古下春上

同

同夏

同秋下

同冬

同尺教

三輪の山よりしは枝をまきあらしむるも今ちかづて来世を元捕

たふあやとまん人も我もやまの橋東よのほしありまん人丸

何道よりあはしと思へん三輪山ありしに六枝をえたり 貫之

あふると今を限つとも三輪山枝のさあはせとあはし 皇后

枝村よりひてあはしもあるり人あはぬ三輪の山も也 後人不知

古里の山に山出しのあはしをまきあはすの氣もあはし 素直法師

海客よまきまのまきまも埋まへしはも今を三輪山也 皇后

今人の心とまの山よりしは思ひやうも 前右宮 斐

春ふれ枝れまはしと思へぬ三輪山をたぐる三輪山也 刑部 頼補

見渡さるうやまはしは枝は霞の池やまは入山也 左兵衛督 房

若菜よまはの枝をまきまも今を三輪山也 茶原時昌

海くゆきままの枝をまきまも今を三輪山也 按察使 貞

枝をまきまはしは枝の山にまきまも今を三輪山也 僧都 範玄

別の人とまはまの枝をまきまも今を三輪山也 祝部 成伴

何れもまきまも今を三輪山也 禅性法師

のほしは枝をまきまも今を三輪山也 股馬口 院

若くとも枝をまきまも今を三輪山也 漢人不知

下まのまはの枝をまきまも今を三輪山也 藻野院

千の枝をまきまも今を三輪山也 茶原信実

やめり三輪の枝村よりまきまも今を三輪山也 中納言 重季

まきまも今を三輪山也 為家

三輪乃山まはの枝をまきまも今を三輪山也 股馬口 院

うらまのまはの枝をまきまも今を三輪山也 漢人不知

りまはの枝をまきまも今を三輪山也 法不覺鬼

あはれまの枝をまきまも今を三輪山也 道前 致大

那の三輪の枝をまきまも今を三輪山也 志原隆信

まきまの枝をまきまも今を三輪山也 後我 前六

今もまきまの枝をまきまも今を三輪山也 衣井 貞内 春

三輪の山にまきまも今を三輪山也 新院 弁内 侍

三輪の山にまきまも今を三輪山也 僧都 玄賢

同雜下

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

たのむる三輪の松を奉りてんくせのふのひはれん

雷のふりてんくせのふのひはれん

三輪の山を奉りてんくせのふのひはれん

心やせいの松を奉りてんくせのふのひはれん

松を奉りてんくせのふのひはれん

少年の松を奉りてんくせのふのひはれん

松を奉りてんくせのふのひはれん

松を奉りてんくせのふのひはれん

松を奉りてんくせのふのひはれん

松を奉りてんくせのふのひはれん

松を奉りてんくせのふのひはれん

松を奉りてんくせのふのひはれん

松を奉りてんくせのふのひはれん

松を奉りてんくせのふのひはれん

松を奉りてんくせのふのひはれん

松を奉りてんくせのふのひはれん

松を奉りてんくせのふのひはれん

松を奉りてんくせのふのひはれん

松を奉りてんくせのふのひはれん

松を奉りてんくせのふのひはれん

松を奉りてんくせのふのひはれん

松を奉りてんくせのふのひはれん

松を奉りてんくせのふのひはれん

松を奉りてんくせのふのひはれん

松を奉りてんくせのふのひはれん

松を奉りてんくせのふのひはれん

松を奉りてんくせのふのひはれん

松を奉りてんくせのふのひはれん

松を奉りてんくせのふのひはれん

松を奉りてんくせのふのひはれん

性明親王

權僧正

左近衛將監

後成

權大納言

信師

定家

從三位行能

權大納言

信

從三位行能

權大納言

信

從三位行能

權大納言

信

從三位行能

權大納言

信

從三位行能

權大納言

信

從三位行能

權大納言

信

從三位行能

權大納言

信

從三位行能

權大納言

信

同雜中

同雜下

同神祇

同

同

古

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

かじりあもこの後承の核のや本後文のさうらうん 龜山院

核のや本後文のさうらうん 檢察使 貞

乃りぬみとの神山本中とさうらうんは核をたぬん 前入僧 守

うさ事とさうらうんは核をたぬん 後三条前内 大臣

大は敷やまは立派とさうらうんは核をたぬん 一品法親王 孝仁

三宮 山神岸 大和 葛下郡 任人不知人 貞

三宮 山神岸 大和 葛下郡 任人不知人 貞

三宮 山神岸 大和 葛下郡 任人不知人 貞

三宮 山神岸 大和 葛下郡 任人不知人 貞

三宮 山神岸 大和 葛下郡 任人不知人 貞

三宮 山神岸 大和 葛下郡 任人不知人 貞

三宮 山神岸 大和 葛下郡 任人不知人 貞

三宮 山神岸 大和 葛下郡 任人不知人 貞

三宮 山神岸 大和 葛下郡 任人不知人 貞

三宮 山神岸 大和 葛下郡 任人不知人 貞

三宮 山神岸 大和 葛下郡 任人不知人 貞

三宮 山神岸 大和 葛下郡 任人不知人 貞

三宮 山神岸 大和 葛下郡 任人不知人 貞

三宮 山神岸 大和 葛下郡 任人不知人 貞

三宮 山神岸 大和 葛下郡 任人不知人 貞

三宮 山神岸 大和 葛下郡 任人不知人 貞

三宮 山神岸 大和 葛下郡 任人不知人 貞

三宮 山神岸 大和 葛下郡 任人不知人 貞

三宮 山神岸 大和 葛下郡 任人不知人 貞

三宮 山神岸 大和 葛下郡 任人不知人 貞

三宮 山神岸 大和 葛下郡 任人不知人 貞

三宮 山神岸 大和 葛下郡 任人不知人 貞

三宮 山神岸 大和 葛下郡 任人不知人 貞

三宮 山神岸 大和 葛下郡 任人不知人 貞

三宮 山神岸 大和 葛下郡 任人不知人 貞

三宮 山神岸 大和 葛下郡 任人不知人 貞

三宮 山神岸 大和 葛下郡 任人不知人 貞

三宮 山神岸 大和 葛下郡 任人不知人 貞

同雜下

候古今冬

候拾遺秋下

同冬

同雜秋

同

新後撰冬

玉葉秋下

同

同賀

候千載夏

同秋下

同神祇

同冬

同

同

同

同

新千載春

同秋下

同冬

同雜上

新拾遺冬

新後撰秋下

新後撰春

同秋下

同

宮滝

大和 吉野郡

とむら山花もお祭もゆりてねむらひのちんた下茶 法眼覚宗

三宮や海時ぬまに業吹同よぬれきりうみ谷に余え 後鳥羽院

とむら山林花祭のゆくう下茶もそねむらひん 前右兵衛督

冬の事もお祭吹ゆりてとむら山の事も林うゆき 為教

三宮山林の時ぬまに深きもそねむらひん 後鳥羽院

その事もお祭吹ゆりてとむら山の事も林うゆき 順徳院

折てそねむらひん 若原重名

お祭吹ゆりてとむら山の事も林うゆき 順徳院

深きもそねむらひん 延位教長

とむら山林花祭のゆくう下茶もそねむらひん 僧正安超

三宮や海時ぬまに業吹同よぬれきりうみ谷に余え 正三位季經

とむら山林花祭のゆくう下茶もそねむらひん 光明寺

折てそねむらひん 前内大臣通

お祭吹ゆりてとむら山の事も林うゆき 法性寺

とむら山林花祭のゆくう下茶もそねむらひん 信長朝臣

折てそねむらひん 信長朝臣

とむら山林花祭のゆくう下茶もそねむらひん 蓮生法印

とむら山林花祭のゆくう下茶もそねむらひん 津守國本

とむら山林花祭のゆくう下茶もそねむらひん 煎納寺

とむら山林花祭のゆくう下茶もそねむらひん 後崎院

とむら山林花祭のゆくう下茶もそねむらひん 赤子内親

とむら山林花祭のゆくう下茶もそねむらひん 祝部行親

とむら山林花祭のゆくう下茶もそねむらひん 前左大臣

とむら山林花祭のゆくう下茶もそねむらひん 極本丸

とむら山林花祭のゆくう下茶もそねむらひん 源家長

とむら山林花祭のゆくう下茶もそねむらひん 前権臣

とむら山林花祭のゆくう下茶もそねむらひん 今上御

後撰卷三

水の流るる舟の影をみれば 白浪のまをりて 雲霞の 晴き清き

同様

水ひきく白浪をみれば 後のはなをみれば 菅原左衛門

同

杖の影をみれば 白浪のまをりて 素性法師

同

亭子院の文滝の影をみれば 時をみれば 性法師

同

くせらぬ舟の影をみれば 舟の影をみれば 舟の影をみれば

同

舟の影をみれば 舟の影をみれば 舟の影をみれば

同

舟の影をみれば 舟の影をみれば 舟の影をみれば

同

舟の影をみれば 舟の影をみれば 舟の影をみれば

同

舟の影をみれば 舟の影をみれば 舟の影をみれば

同

舟の影をみれば 舟の影をみれば 舟の影をみれば

同

舟の影をみれば 舟の影をみれば 舟の影をみれば

同

舟の影をみれば 舟の影をみれば 舟の影をみれば

同

舟の影をみれば 舟の影をみれば 舟の影をみれば

同

舟の影をみれば 舟の影をみれば 舟の影をみれば

同

舟の影をみれば 舟の影をみれば 舟の影をみれば

同

舟の影をみれば 舟の影をみれば 舟の影をみれば

同

舟の影をみれば 舟の影をみれば 舟の影をみれば

同

舟の影をみれば 舟の影をみれば 舟の影をみれば

同

舟の影をみれば 舟の影をみれば 舟の影をみれば

同

舟の影をみれば 舟の影をみれば 舟の影をみれば

同

舟の影をみれば 舟の影をみれば 舟の影をみれば

同

舟の影をみれば 舟の影をみれば 舟の影をみれば

同

舟の影をみれば 舟の影をみれば 舟の影をみれば

同

舟の影をみれば 舟の影をみれば 舟の影をみれば

同

舟の影をみれば 舟の影をみれば 舟の影をみれば

同

舟の影をみれば 舟の影をみれば 舟の影をみれば

同

舟の影をみれば 舟の影をみれば 舟の影をみれば

同

舟の影をみれば 舟の影をみれば 舟の影をみれば

同

舟の影をみれば 舟の影をみれば 舟の影をみれば

同

舟の影をみれば 舟の影をみれば 舟の影をみれば

同

舟の影をみれば 舟の影をみれば 舟の影をみれば

同

舟の影をみれば 舟の影をみれば 舟の影をみれば

同

舟の影をみれば 舟の影をみれば 舟の影をみれば

同

舟の影をみれば 舟の影をみれば 舟の影をみれば

同

舟の影をみれば 舟の影をみれば 舟の影をみれば

同

舟の影をみれば 舟の影をみれば 舟の影をみれば

新千載春

新千載春一 百有奇の巻ありて乃て極の花春し後もけいりかゝり也 大相書經信

古今雜辨 諸

耳益山 大和 十市郡 後人不知

同返一 耳益山の山ありてすなうき鳥ありて人討ちぬ 時めまのこ

新勅撰雜書

世中いんちやまをさるる川別神すまふなりけり 任人不知

湯墓山

湯田 一説大和

心を守將忠れ勤まらうて後太子廟にまゝなる

玉葉雜書

三ノ木ありてとけとけをみてる山を名にす 花山院道前石大自

古今恋三

水無瀬 川山里 後津 嶋上郡 友則 後人不知

同恋五

後拾遺雜書

千載恋三 思ひ合ふ人なかりや 大納言公実 右京基俊

同恋五

新古今春上 心をよきし心よりよきとれせ川を林とちいさく 太上天皇

新勅撰恋五

後拾遺雜書 春と後てやとさうなかり 康資正母 平時直

後拾遺雜書

新後撰冬 少く思ひてまをの下の心を川にあら 共部少隆親 世後尚長

後千載戀

同恋四 心を相渡ける物な水は川にありて 後基太政大臣 前大納言

同離下

後拾遺戀 心をよきし心よりよきとれせ川を林とちいさく 西宮法仲 紀俊文

月雅雜上

新千載夏 心をよきし心よりよきとれせ川を林とちいさく 前小成奴 前納言

同恋五

水無瀬川 心をよきし心よりよきとれせ川を林とちいさく 前納言 前小成奴

新拾遺雜中
新拾遺雜秋
新法古今秋
同
同雜中

如く... 中宮... 後... 權中... 前大僧正... 源光正

中宮... 後... 權中... 前大僧正... 源光正

同雜恋五
同雜恋
後拾遺春上
詞苑雜上
新古今春上
同夏

... 淡... 柿本... 源... 左... 大納言... 友原行能

淡... 柿本... 源... 左... 大納言... 友原行能

新勅撰恋三
同恋四
同雜一

... 權... 友原行能

權... 友原行能

新古今雜中
後千載雜
後拾遺送冬
新千載恋三
新拾遺恋三
新後拾遺秋
新法古今秋
同恋一
同

友... 權... 為道... 頭昭... 大納言... 津守... 内... 正... 後人... 同

權... 為道... 頭昭... 大納言... 津守... 内... 正... 後人... 同

古今恋
同雜
同雜下
同返
後撰雜三

... 業平...

業平...

古今恋
同雜
同雜下
同返
後撰雜三

... 業平...

業平...

新古今様

とて子ももるも日中入大付はつのも面松結ふゆん

生博良
権中納言

同

根志を弘波のうらみ立煙ふくやくおまけりお大

雅經

同恋五

はの國はれおあそそ山背入あつうういゆい金路飛

三位知家

後後撰文

大付のふゆの松系もふ事いあらういほふこそ起引

三位行能

同類上

大付のふゆの松系もふ事いあらういほふこそ起引

中後觀聖

同

心あつび人のたのめやくもむん弘波今いのまふん

後鳥羽院

同恋一

弘波なるみつうらぬあそそ起引若の将も弘波

前左大臣

後拾遺冬

松系もふゆの松系もふ事いあらういほふこそ起引

土御門院

後千載春上

大付のふゆの松系もふ事いあらういほふこそ起引

道前親政

同秋下

大付のふゆの松系もふ事いあらういほふこそ起引

中後親王

後後拾遺三

あつび人のたのめやくもむん弘波今いのまふん

為道朝臣

同類中

あつび人のたのめやくもむん弘波今いのまふん

安永元年

新千載秋下

あつび人のたのめやくもむん弘波今いのまふん

阿計卿

高子院弘波のうらみ立煙ふくやくおまけりお大

貞教親王

同

あつび人のたのめやくもむん弘波今いのまふん

家隆

同類中

あつび人のたのめやくもむん弘波今いのまふん

定家

湊川

橋本

千載秋下

あつび人のたのめやくもむん弘波今いのまふん

刑部範兼

同

あつび人のたのめやくもむん弘波今いのまふん

道員法師

新勅撰秋下

あつび人のたのめやくもむん弘波今いのまふん

内大臣

同類古文

あつび人のたのめやくもむん弘波今いのまふん

順徳院

新後拾遺夏

あつび人のたのめやくもむん弘波今いのまふん

前中納言

湊山

同

新勅撰雜五

あつび人のたのめやくもむん弘波今いのまふん

後徳寺元

湊新

同

新古今雜下

あつび人のたのめやくもむん弘波今いのまふん

大原基俊

箕面

同

千載垂

三犬女浦

此の山は... 伊勢

後撰撰秋中

同恋一

同恋四

五葉恋

後撰拾遺恋

同恋五

同恋

新撰古今

同

後撰撰神祇

同

後撰古今賀

五葉神祇

後撰撰神祇

凡雅春

同神祇

同賀

新撰撰神祇

同

同恋

新撰撰神祇

新撰撰神祇

格澤下

雲山坪

松園

法親王

権大僧都

聖大御言

源親行

大江忠成女

大鷹隆博

若原師光

院中

源義種

源頼康

定家

伊勢

院中

権大僧都

後鳥羽院

後京極

前僧正

前右大臣

後鳥羽院

西行法師

俊成

院中

神祇伯

兼主浦親

家隆

真教院

同神祇

津國のすそ川の水清くそらりてと流るひん 後人不知

宮川

伊勢

新古今神祇

宮川のすそ川のゆふろくをと流るひん 定家

淡路神祇

宮川のすそ川のゆふろくをと流るひん 後鳥羽院

同雅賀

宮川のすそ川のゆふろくをと流るひん 後鳥羽院

新後拾遺神祇

宮川のすそ川のゆふろくをと流るひん 度會朝臣

三渡

同

伊勢國のすそ川のゆふろくをと流るひん

て中下小壑のゆふろくをと流るひん

まは松原のゆふろくをと流るひん

宮川のすそ川のゆふろくをと流るひん 増基法師

高路山

三河

宮川のすそ川のゆふろくをと流るひん 後人不知

宮川のすそ川のゆふろくをと流るひん

後古今神祇

宮川のすそ川のゆふろくをと流るひん 中務親王

新後撰

宮川のすそ川のゆふろくをと流るひん 前大納言氏

玉葉秋下

宮川のすそ川のゆふろくをと流るひん 後鳥羽院

同

宮川のすそ川のゆふろくをと流るひん 平宗宣朝臣

同雅一

宮川のすそ川のゆふろくをと流るひん 後人不知

同雅中

宮川のすそ川のゆふろくをと流るひん 藤原光隆

新拾遺神祇

宮川のすそ川のゆふろくをと流るひん 後鳥羽院

新後撰

宮川のすそ川のゆふろくをと流るひん 法永徑賢

三吉野

武蔵

宮川のすそ川のゆふろくをと流るひん 後人不知

同返

宮川のすそ川のゆふろくをと流るひん 在原藤原

新後撰

宮川のすそ川のゆふろくをと流るひん 大倉直家

同雅上

宮川のすそ川のゆふろくをと流るひん 法下慶運

美奈乃河

常陸

後撰恋三

宮川のすそ川のゆふろくをと流るひん 陽成院

宮川のすそ川のゆふろくをと流るひん

○六上

新古今

同恋一

後撰撰秋下

新撰撰秋上

玉葉秋上

同雜一

後撰撰送物

同恋二

同恋四

新撰撰冬

同恋四

同雜上

同雜中

新撰撰春

同秋下

新撰撰今秋

同冬

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 顯照法師

あはれん思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 後入不知

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 順徳院

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 定家

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 人磨

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 為家

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 因三政臣

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 前左大臣

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 鎌倉大臣

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 源兼氏

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 六条内大臣

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 從征行惠

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 坂本信良

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 素直法師

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 僧正行意

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 平常

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 定家

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 權中納言

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 權中納言

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 權中納言

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 權中納言

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 權中納言

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 權中納言

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 權中納言

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 權中納言

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 權中納言

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 權中納言

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 權中納言

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 權中納言

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 權中納言

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 權中納言

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 權中納言

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 權中納言

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 權中納言

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 權中納言

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 權中納言

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 權中納言

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 權中納言

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 權中納言

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 權中納言

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 權中納言

水々々の思の暮るるを交付て今始くは秋の思の風 權中納言

新後拾遺恋

うるもの水乃松のたぐひは秋を引人とする 源兼氏撰

新後恋終

松の根山のふもてら落れぬるの浦をに頼るさゆけき 永福門院

同冬

吹雪もそ風のちもささるの松の山若かりに寄り 迷提法師

同恋

人知ぬ水乃の松山のふもてらるるささるの松の山若かりに寄り 全上五郎

同恋

つふもささるの松の山若かりに寄り 後三条女

同恋

つふもささるの松の山若かりに寄り 後九條前大臣

同

つふもささるの松の山若かりに寄り 前中納言為

三村山

寛治元年悠純の世に國にひびく

新勅撰賀

時ぬる三村山の松の山若かりに寄り 匡房

美濃湯山

美濃

新恋恋五

思ひおぼしむる松の山若かりに寄り 伊勢

後後撰離

つふもささるの松の山若かりに寄り 平伍知家

新後撰恋二

つふもささるの松の山若かりに寄り 遊義門院

同離下

つふもささるの松の山若かりに寄り 前中納言

新拾遺冬

つふもささるの松の山若かりに寄り 徒三行能

同離中

つふもささるの松の山若かりに寄り 龜山院

新後恋五

つふもささるの松の山若かりに寄り 右衛門尉

美濃中山

美濃

後恋恋四

つふもささるの松の山若かりに寄り 定家

後拾遺旅

つふもささるの松の山若かりに寄り 後人不知

後後拾遺離

つふもささるの松の山若かりに寄り 前森藏

信濃

信濃

玉葉離

つふもささるの松の山若かりに寄り 金刺威久

新子載旅

つふもささるの松の山若かりに寄り 蓮生法師

宮城野原

宮城野原

古今恋四

つふもささるの松の山若かりに寄り 淡人不知

同恋恋中

つふもささるの松の山若かりに寄り 若原長能

後拾遺秋上

つふもささるの松の山若かりに寄り 若原長能

千載夏

とりむつ文流の意の下あふ悪のちもつらん
前中納言房

同

小松原さうく花さぬ文流の唐や今狂の月ふるらん
藤原敦仲

同秋

文流のいんもを唐の書もふじれたさうく
右原基俊

同

文流のふさうさう文流むだたのめく虫のさうく
源俊頼朝臣

同秋下

文流のふさうさう文流むだたのめく虫のさうく
覚延法師

新古今秋上

あふれつふさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう
西行法師

同恋五

おさうさうさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう
決人不知

同雜上

白あふさうさうさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう
祝部元仲

同雜下

あふれつふさうさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう
赤染孝門

新勅撰秋上

さうさうさうさうさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう
祐子内親王

同雜

文流のふさうさうさうさうさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう
平政村

後撰秋上

あふれつふさうさうさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう
定家

後古今秋下

さうさうさうさうさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう
順徳院

後拾遺秋上

あふれつふさうさうさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう
太上天皇

同

あふれつふさうさうさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう
従三位忠兼

同

あふれつふさうさうさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう
大空権師

同

あふれつふさうさうさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう
源清兼

同

あふれつふさうさうさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう
土御門院

同

あふれつふさうさうさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう
後徳寺院

後千載秋上

あふれつふさうさうさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう
前大納言

同雜

あふれつふさうさうさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう
正三位兼経

後撰拾遺秋上

あふれつふさうさうさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう
淡人不知

同

あふれつふさうさうさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう
三条道長

同

あふれつふさうさうさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう
金兼院

同

あふれつふさうさうさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう
春景公

同

あふれつふさうさうさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう
平貞宣

同

あふれつふさうさうさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう
鴨長明

同

あふれつふさうさうさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう
中納言

同

あふれつふさうさうさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう
前大納言

新千載夏

あふれつふさうさうさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう
彈正良房

同秋上

あふれつふさうさうさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう
前大納言

同

あふれつふさうさうさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう文流のふさうさう
彈正良房

新拾遺夏

中りしものなる衣をぬれて今秋の守りやまじく

尤兼兼督基

同整

秋の衣をぬれて今秋の守りやまじく

法平定為

同旅

秋の衣をぬれて今秋の守りやまじく

法平隆測

同雜上

秋の衣をぬれて今秋の守りやまじく

有家

新後拾遺秋

秋の衣をぬれて今秋の守りやまじく

雅成親王

同

秋の衣をぬれて今秋の守りやまじく

後三位嚴子

同

秋の衣をぬれて今秋の守りやまじく

前發誠定

新後拾遺夏

秋の衣をぬれて今秋の守りやまじく

正三位通安

同秋上

秋の衣をぬれて今秋の守りやまじく

前發誠雅

同

秋の衣をぬれて今秋の守りやまじく

後三位家平

同別

秋の衣をぬれて今秋の守りやまじく

右原長能

同旅

秋の衣をぬれて今秋の守りやまじく

正三位通經

同整上

秋の衣をぬれて今秋の守りやまじく

勝定院贈

新後拾遺秋

秋の衣をぬれて今秋の守りやまじく

右大臣

同雜中

秋の衣をぬれて今秋の守りやまじく

太上天皇

新後撰旅

秋の衣をぬれて今秋の守りやまじく

光明寺入道前發政左大臣

都鴻

陸奥

小野小町

京滅奇

秋の衣をぬれて今秋の守りやまじく

三鴻野

越中 射水郡

前内大臣基

後拾遺秋下

秋の衣をぬれて今秋の守りやまじく

為家

新拾遺冬

秋の衣をぬれて今秋の守りやまじく

前發誠雅

新後古今恋

秋の衣をぬれて今秋の守りやまじく

丹後 射水郡

後撰雜

秋の衣をぬれて今秋の守りやまじく

中誓

新古今雜下

秋の衣をぬれて今秋の守りやまじく

人磨

後古今春上

秋の衣をぬれて今秋の守りやまじく

太上天皇

新拾遺雜上

秋の衣をぬれて今秋の守りやまじく

平高宗

水江 龍野 宮

同 一説出雲

新古今雜中

秋の衣をぬれて今秋の守りやまじく

秀能

後拾遺春上 新撰撰下 神代卷とくをいふはのうたをよき春のうたをいふと 鎌倉右大臣

三種家 紀伊 日高郡

玉葉集 紀伊玉三種右家とありてはたは 傳通法師 志堅の志堅をいふとありては紀伊志堅今なきあはれをいふとありては同

法皇社 後前 市笠郡 順和名當国見

後拾遺春上 後拾遺春上 紀伊志三 志堅の志堅をいふとありては紀伊志堅今なきあはれをいふとありては同 津守国冬

後拾遺春一 とうりうの 蕪宇浦のりも貝ははさきとありてはたは 肥後 葦北郡 馬内侍

水場 肥後 葦北郡

後拾遺春上 新撰撰下 若山の野坂の浦小舟とありてはたは 長田王 新撰撰下 若山の野坂の浦小舟とありてはたは 大僧正道順

新撰撰下 新撰撰下 似やとて 藤原の煙をいふとありてはたは 未勘 前大納言 談回言責

後拾遺春上 後拾遺春上 春のふれはたは 魅かるとありてはたは 大納言師範 後鳥羽院

新撰撰下 新撰撰下 似やとて 藤原の煙をいふとありてはたは 未勘 前大納言 談回言責

後拾遺春下 似やとて 藤原の煙をいふとありてはたは 未勘 前大納言 談回言責

三葉恋五 似やとて 藤原の煙をいふとありてはたは 未勘 前大納言 談回言責

古今恋三 似やとて 藤原の煙をいふとありてはたは 未勘 前大納言 談回言責

同良傷 似やとて 藤原の煙をいふとありてはたは 未勘 前大納言 談回言責

後拾遺春上 似やとて 藤原の煙をいふとありてはたは 未勘 前大納言 談回言責

伊賀守將

同

同春下

金葉春

同

詞亦春

同雜上

同雜下

千載卷

同雜中

車馬の人よとらわさく川乃家ゆと切や花をむす 氏部長家

仍事とせなく光るや白川の氷とたふそまらば 吉野七大臣

白川乃流止久しえ宿おれ花の匂いあめりり多 大政大臣

万代のたよりいふ花の支をぬしとてや白川のあり 待賢門院共

白川の雲は花とてわらせえ松を花のたふらりり 源俊親卿

春のさぬやえを花とて白川の原下とのも花のさくえん 小式部内侍

ちりひのちをれと花とていふとて花のさくえん 大納言成通

けしきと花の鏡とていふとて花のさくえん 花園九大臣

おもはふ沈みしをる花をれあけいふとて白川のあり 友原家基

中将多す白川乃流乃為まるるそと十代りり白川のあり

よまらりり若るに白川の二葉沙さる流乃て

新亭哀傷

同雜上秋下

勅後撰

同

きよ守のあまをまき山里に花をさく人とならる 前奥御言仕

おれくしてや金波のさくもちとて白川の流乃下を 雅深

花の鏡乃花と花とていふとて花のさくえん 白川のあり 前奥御言仕

あられけり花と今春の白川のさくも花のさくえん 白川のあり 前奥御言仕

花のさくえん 白川のあり 前奥御言仕

ちり川あり家又花の流乃て年へて後海よりて 煥灼りり

同雜中

月雅雜下

勅下載賀

新拾遺春下

た雲を浅き青く下に埋まて春の流乃と花のさくえん 前奥御言仕

いふとて花のさくえん 白川の流乃と花のさくえん 前奥御言仕

ちり川あり花の流乃と花のさくえん 白川の流乃と花のさくえん 前奥御言仕

ちり川あり花の流乃と花のさくえん 白川の流乃と花のさくえん 前奥御言仕

地電

山城 愛宕郡

法性寺入道 前園白大政 大臣

古哀傷

後拾遺雜

標野

大和

同

ちり川あり花の流乃と花のさくえん 白川の流乃と花のさくえん 前奥御言仕

笙室

大和の笙室をたふそとていふとて

あられけり花と今春の白川のさくも花のさくえん 白川のあり 前奥御言仕

大和の笙室をたふそとていふとて

あられけり花と今春の白川のさくも花のさくえん 白川のあり 前奥御言仕

千載雜

あられけり花と今春の白川のさくも花のさくえん 白川のあり 前奥御言仕

新古今教

寂實の喜れ多し其の思は涙の如くぬれぬ日そは死
しつ計の事は神の志の如くしんもらぬを言ふしつ

日藏上人
普光園道
前開日本書

風雅雜中

く歌とあく。なまきり甚れ秋かきぬ家家の思は秋の思

静住法親王

新後拾遺

心もやうらよびらるる面おもりのめを言はれし心

真僧正良

秋

思思

河内 一説武列

新後撰夏

約今よりとせしつて時をいどり思ひの思ふより人

法下見寛
後押小路前
内大臣

信太杜

和泉

後拾遺夏

秋の思ふは思ふ人部云依は社のかたに言あり

能円法師

詞花雜上

秋の思ふは思ふ人部云依は社のかたに言あり

内大臣

同種下

秋の思ふは思ふ人部云依は社のかたに言あり

増基法師

千載春下

秋の思ふは思ふ人部云依は社のかたに言あり

前開日本書

同種下

秋の思ふは思ふ人部云依は社のかたに言あり

前開日本書

同種下

秋の思ふは思ふ人部云依は社のかたに言あり

赤染門

後拾遺夏

秋の思ふは思ふ人部云依は社のかたに言あり

入道前政大

後拾遺冬

秋の思ふは思ふ人部云依は社のかたに言あり

市内大臣

後千載冬

秋の思ふは思ふ人部云依は社のかたに言あり

通親公

同

秋の思ふは思ふ人部云依は社のかたに言あり

深守国助

後拾遺夏

秋の思ふは思ふ人部云依は社のかたに言あり

交彦重綱

新拾遺夏

秋の思ふは思ふ人部云依は社のかたに言あり

前大納言

新後拾遺夏

秋の思ふは思ふ人部云依は社のかたに言あり

伏見院

同

秋の思ふは思ふ人部云依は社のかたに言あり

前大僧正

新古今冬

秋の思ふは思ふ人部云依は社のかたに言あり

正三位知家

同

秋の思ふは思ふ人部云依は社のかたに言あり

三位範宗

敷津

振津

千載秋

秋の思ふは思ふ人部云依は社のかたに言あり

俊重法師

新古今秋

秋の思ふは思ふ人部云依は社のかたに言あり

実方朝臣

後撰春上

秋の思ふは思ふ人部云依は社のかたに言あり

後法性寺

新後撰秋下

秋の思ふは思ふ人部云依は社のかたに言あり

前開日本書

同林

後吉の松の心は後松物多し其地はつるの月と夕なり

至葉冬

増尾小立く松岐もみすは小名と名はつる松の地 贈徒在子

新拾遺草

衣心と云ふ心はつらぬ松源と波するの心はつらぬ 法不覺覺

注連宮

伊勢

新拾遺神祇

注と云ふ心はつらぬ松源と波するの心はつらぬ 荒木田延

志賀須香白渡

三河

後松別

切心なる松物多し其地はつるの月と夕なり 赤染出門

志賀須香白渡

後松雜上

思ふ心と云ふ心はつらぬ松源と波するの心はつらぬ 能用法師

新拾遺雜上

松心と云ふ心はつらぬ松源と波するの心はつらぬ 放原家

後松拾遺

松心と云ふ心はつらぬ松源と波するの心はつらぬ 中松

後松拾遺

松心と云ふ心はつらぬ松源と波するの心はつらぬ 三品法親王

白菅渡

遠江

後松雜上

松心と云ふ心はつらぬ松源と波するの心はつらぬ 前良臣基

新拾遺雜上

松心と云ふ心はつらぬ松源と波するの心はつらぬ 前中松言

月雅雜上

松心と云ふ心はつらぬ松源と波するの心はつらぬ 正三位知家

新拾遺秋下

松心と云ふ心はつらぬ松源と波するの心はつらぬ 正三位成国

塩山

甲斐

至葉賀

松心と云ふ心はつらぬ松源と波するの心はつらぬ 清人不知

新拾遺賀

松心と云ふ心はつらぬ松源と波するの心はつらぬ 眞實言誰

新拾遺冬

松心と云ふ心はつらぬ松源と波するの心はつらぬ 忠房親王

滴社

常陸

新拾遺送秋

松心と云ふ心はつらぬ松源と波するの心はつらぬ 前良臣基

海加久

海加久

近江 滋賀郡

至葉秋

松心と云ふ心はつらぬ松源と波するの心はつらぬ 貫之

松心と云ふ心はつらぬ松源と波するの心はつらぬ

同林下

松心と云ふ心はつらぬ松源と波するの心はつらぬ 春道列樹

松心と云ふ心はつらぬ松源と波するの心はつらぬ

同冬

松心と云ふ心はつらぬ松源と波するの心はつらぬ 松心と云ふ心はつらぬ松源と波するの心はつらぬ

同

同神祇

同雜

後後撰春中

同春下

同

同神祇

同

同雜

飯吉春上

同

同賀

後拾遺春上

同春下

同

同

同雜春

同雜上

同神祇

新後撰春中

同秋下

同冬

同雜上

玉葉春上

同春下

同

同雜

同雜

去の浦や水ぬひまど行舟不波とみちまをせとやみ交

去の浦よ又の文れ多しきくまきりりたのおと 前僧正 藤

まきとてふは花園自んをさあふ秋のくくんちま 祝部成茂

世へゆる志望の都れ終るれとあぬをまぬあせり 同

けはみ交の橋とよれと先そまふ波らぬのくく色 左近衛將

ま本もあとも風とまきとん笑とけいおまをうれを 二宮門院

たふけり終ふはくまき風はまはれあぬのあぬ 道前

たの折村ふらる花の白いとよすおまを交のくく 後京極

交とまきし津代の事と馬れに結らん地とまぬ 祝部成茂

見ぬるはま津の舞のいさう船をまきまはれは 洞院

春風ふくくの水ふれとてまきまゆまふれ浦波 後鳥羽院

くまふけり水もまきし波とてぬれぬまの天橋 寂蓮法

跟ふれ時とまきまは成まは波松くまふらぬ 權納言

風ふけりまき下通のくく先そまの波は花とくあん 前僧正

若冷おどるん波のくく先そまの波は花とくあん 後鳥羽院

いけ波やまのうく清水波松くら外れ浦をまき 平宣時

まはれ浦やまのうく清水のまきまきまき山内のを 前僧正

まきまきまきのまきと先そまのまきまきまき 前僧正

まきまきまきのまきと先そまのまきまきまき 法下良寛

まきまきまきのまきと先そまのまきまきまき 後徳光院

まきまきまきのまきと先そまのまきまきまき 家隆

まきまきまきのまきと先そまのまきまきまき 院大納言

まきまきまきのまきと先そまのまきまきまき 權納言

まきまきまきのまきと先そまのまきまきまき 津守国助

まきまきまきのまきと先そまのまきまきまき 基氏

まきまきまきのまきと先そまのまきまきまき 權納言

まきまきまきのまきと先そまのまきまきまき 西行法師

まきまきまきのまきと先そまのまきまきまき 後人不知

まきまきまきのまきと先そまのまきまきまき 藤原為道

同神祇

新抄の部は小後給て多しむりてその御多里 前大徳正忠

同春下

五波の上春のさび多りて波や吹吹くまのうらむる 為家

同

花のさびの古里よりまればさびのてまをさうく 権中納言友

同秋下

さびやむの岸よりまてればさびのてまをさうく 後鳥羽院

同

秋の波をさびとてさびのてまをさうく 大僧正明善

同

秋の波をさびとてさびのてまをさうく 祝部成文

同

秋の波をさびとてさびのてまをさうく 行觀法師

同

秋の波をさびとてさびのてまをさうく 後鳥羽院

同

秋の波をさびとてさびのてまをさうく 定家

同

秋の波をさびとてさびのてまをさうく 前僧正道性

同

秋の波をさびとてさびのてまをさうく 身羽院

同

秋の波をさびとてさびのてまをさうく 吉田公實内

同

秋の波をさびとてさびのてまをさうく 後鳥羽院

同

秋の波をさびとてさびのてまをさうく 前僧正道性

同

秋の波をさびとてさびのてまをさうく 前僧正道性

同

秋の波をさびとてさびのてまをさうく 前僧正道性

同

秋の波をさびとてさびのてまをさうく 前僧正道性

同

秋の波をさびとてさびのてまをさうく 前僧正道性

同

秋の波をさびとてさびのてまをさうく 前僧正道性

同

秋の波をさびとてさびのてまをさうく 前僧正道性

同

秋の波をさびとてさびのてまをさうく 前僧正道性

同

秋の波をさびとてさびのてまをさうく 前僧正道性

同

秋の波をさびとてさびのてまをさうく 前僧正道性

同

秋の波をさびとてさびのてまをさうく 前僧正道性

同

秋の波をさびとてさびのてまをさうく 前僧正道性

同

秋の波をさびとてさびのてまをさうく 前僧正道性

同

秋の波をさびとてさびのてまをさうく 前僧正道性

同

秋の波をさびとてさびのてまをさうく 前僧正道性

同

秋の波をさびとてさびのてまをさうく 前僧正道性

同

秋の波をさびとてさびのてまをさうく 前僧正道性

同

秋の波をさびとてさびのてまをさうく 前僧正道性

同

秋の波をさびとてさびのてまをさうく 前僧正道性

同

秋の波をさびとてさびのてまをさうく 前僧正道性

同

秋の波をさびとてさびのてまをさうく 前僧正道性

同春下

若加とまをさきみられ志うの山久入ある妻か小白と橋と 後宇多院

同

志の山同ちまをさきみられ志うの山久入ある妻か小白と橋と 後二条院

同

志果し志の山久入ある妻か小白と橋と 前大納言

同

後うらちうらちの山久入ある妻か小白と橋と 伏見院新撰

同秋上

志の山久入ある妻か小白と橋と 清門院

同冬

志の山久入ある妻か小白と橋と 權大納言

同神祇

律代うらちの山久入ある妻か小白と橋と 法中延全

同雜上

志の山久入ある妻か小白と橋と 後二条院

新後拾遺下

志の山久入ある妻か小白と橋と 前大納言

同

志の山久入ある妻か小白と橋と 權大納言

同秋下

志の山久入ある妻か小白と橋と 九大臣

同

志の山久入ある妻か小白と橋と 安徳院

同

志の山久入ある妻か小白と橋と 源賴春朝臣

同雜春

志の山久入ある妻か小白と橋と 為道朝臣

同

志の山久入ある妻か小白と橋と 源右任

新後拾遺上

志の山久入ある妻か小白と橋と 源右任

同

志の山久入ある妻か小白と橋と 等持院

同

志の山久入ある妻か小白と橋と 為家

同春下

志の山久入ある妻か小白と橋と 宮内

同

志の山久入ある妻か小白と橋と 後鳥羽院

同秋上

志の山久入ある妻か小白と橋と 後醍醐院

同秋下

志の山久入ある妻か小白と橋と 後鳥羽院

同冬

志の山久入ある妻か小白と橋と 小槻兼治

同雜上

志の山久入ある妻か小白と橋と 正三位成国

同雜下

志の山久入ある妻か小白と橋と 後三条大臣

同折句十夜

志の山久入ある妻か小白と橋と 後鳥羽院

十禅師宮

近江 滋賀郡

十禅師宮

後後撰神祇

志の山久入ある妻か小白と橋と 後京極

同

志の山久入ある妻か小白と橋と 前大納言

同冬

去りきつと心あやみのうち耐敷りや里人かたどかりん

等持院贈
左大臣

新後春

昨日と逢ふらまはひきうたむと心の記を雪りと野

法下注賢
前大納言
宗

同冬

那ふ雪色なる秋に去りきつと心の結を心奥を去りけり

前大納言
宗

白日山

出江

新勅撰恋四 ゆふたつと白日山のこねらるる後とくちあへんをそ思 後今不知

標本奇原

下野

新古今人教 程形めめ詠の系ゆくとあやむ世中にあむむらり

山の奇こは清水の氣なる乃は水の心らん

新千載雜下 ゆふれいふはあちの冬を去りけりとあてはれ星の軌 後今不知

信史

里山 杜浦

陸奥

信史郡

古今恋四 陸奥の思ふとらむらるる後ゆふたつ思ふ我あめふ

河原左大臣

復撰恋三 程形めめ詠の系ゆくとあやむ世中にあむむらり

後今不知

同別 去りきつと心あやみのうち耐敷りや里人かたどかりん

後原
滋野
女

後拾遺雜一 陸奥の思ふとらむらるる後ゆふたつ思ふ我あめふ

能回法師

金葉恋下 去りきつと心あやみのうち耐敷りや里人かたどかりん

能回法師

同 去りきつと心あやみのうち耐敷りや里人かたどかりん

能回法師

同 去りきつと心あやみのうち耐敷りや里人かたどかりん

能回法師

同 去りきつと心あやみのうち耐敷りや里人かたどかりん

能回法師

同 去りきつと心あやみのうち耐敷りや里人かたどかりん

能回法師

同 去りきつと心あやみのうち耐敷りや里人かたどかりん

能回法師

同 去りきつと心あやみのうち耐敷りや里人かたどかりん

能回法師

同 去りきつと心あやみのうち耐敷りや里人かたどかりん

能回法師

同 去りきつと心あやみのうち耐敷りや里人かたどかりん

能回法師

同 去りきつと心あやみのうち耐敷りや里人かたどかりん

能回法師

同 去りきつと心あやみのうち耐敷りや里人かたどかりん

能回法師

同 去りきつと心あやみのうち耐敷りや里人かたどかりん

能回法師

同 去りきつと心あやみのうち耐敷りや里人かたどかりん

能回法師

同 去りきつと心あやみのうち耐敷りや里人かたどかりん

能回法師

同 去りきつと心あやみのうち耐敷りや里人かたどかりん

能回法師

同 去りきつと心あやみのうち耐敷りや里人かたどかりん

能回法師

同 去りきつと心あやみのうち耐敷りや里人かたどかりん

能回法師

同 去りきつと心あやみのうち耐敷りや里人かたどかりん

能回法師

同 去りきつと心あやみのうち耐敷りや里人かたどかりん

能回法師

月雜恋三

同

新千載卷上

新拾遺卷上

新後拾遺卷上

同雜春

同

新後拾遺卷上

同秋下

拾遺秋

新千載卷上

同別

同旅

千載卷上

同秋下

同旅

同

同

後拾遺卷上

同

新後撰旅

玉葉旅

後千載卷上

同旅

後後拾遺卷上

同物名

同旅

新千載卷上

安土の宮にありては、此の宮の正殿のつらねは、

舟も波のつらねに、舟の奥のふかき水の浦、

舟の奥のふかき水の浦、舟の奥のふかき水の浦、

舟の奥のふかき水の浦、舟の奥のふかき水の浦、

舟の奥のふかき水の浦、舟の奥のふかき水の浦、

舟の奥のふかき水の浦、舟の奥のふかき水の浦、

舟の奥のふかき水の浦、舟の奥のふかき水の浦、

舟の奥のふかき水の浦、舟の奥のふかき水の浦、

舟の奥のふかき水の浦、舟の奥のふかき水の浦、

舟の奥のふかき水の浦、舟の奥のふかき水の浦、

舟の奥のふかき水の浦、舟の奥のふかき水の浦、

舟の奥のふかき水の浦、舟の奥のふかき水の浦、

舟の奥のふかき水の浦、舟の奥のふかき水の浦、

舟の奥のふかき水の浦、舟の奥のふかき水の浦、

舟の奥のふかき水の浦、舟の奥のふかき水の浦、

舟の奥のふかき水の浦、舟の奥のふかき水の浦、

舟の奥のふかき水の浦、舟の奥のふかき水の浦、

舟の奥のふかき水の浦、舟の奥のふかき水の浦、

舟の奥のふかき水の浦、舟の奥のふかき水の浦、

舟の奥のふかき水の浦、舟の奥のふかき水の浦、

舟の奥のふかき水の浦、舟の奥のふかき水の浦、

舟の奥のふかき水の浦、舟の奥のふかき水の浦、

舟の奥のふかき水の浦、舟の奥のふかき水の浦、

舟の奥のふかき水の浦、舟の奥のふかき水の浦、

舟の奥のふかき水の浦、舟の奥のふかき水の浦、

舟の奥のふかき水の浦、舟の奥のふかき水の浦、

舟の奥のふかき水の浦、舟の奥のふかき水の浦、

舟の奥のふかき水の浦、舟の奥のふかき水の浦、

舟の奥のふかき水の浦、舟の奥のふかき水の浦、

舟の奥のふかき水の浦、舟の奥のふかき水の浦、

舟の奥のふかき水の浦、舟の奥のふかき水の浦、

舟の奥のふかき水の浦、舟の奥のふかき水の浦、

舟の奥のふかき水の浦、舟の奥のふかき水の浦、

舟の奥のふかき水の浦、舟の奥のふかき水の浦、

舟の奥のふかき水の浦、舟の奥のふかき水の浦、

新拾遺歌

白くはるる雪のふりて人の心もさびしきありたり 西行法師

同

あつひらねあつひらね秋風は言ひのこころさびしき川の実 母渡彦平

同

秋風は言ひのこころさびしき川の実 後集 前内

新後拾遺歌

あつひらねあつひらね秋風は言ひのこころさびしき川の実 大谷隆盛

同恋四

あつひらねあつひらね秋風は言ひのこころさびしき川の実 平光俊

詞苑別

あつひらねあつひらね秋風は言ひのこころさびしき川の実 源満元朝臣

新後拾遺二

あつひらねあつひらね秋風は言ひのこころさびしき川の実 大甲非斐

新後集恋

あつひらねあつひらね秋風は言ひのこころさびしき川の実 大甲臣能直

同

あつひらねあつひらね秋風は言ひのこころさびしき川の実 左大将公名

同

あつひらねあつひらね秋風は言ひのこころさびしき川の実 左大将公名

同

あつひらねあつひらね秋風は言ひのこころさびしき川の実 左大将公名

同

あつひらねあつひらね秋風は言ひのこころさびしき川の実 左大将公名

同

あつひらねあつひらね秋風は言ひのこころさびしき川の実 左大将公名

同

あつひらねあつひらね秋風は言ひのこころさびしき川の実 左大将公名

同

あつひらねあつひらね秋風は言ひのこころさびしき川の実 左大将公名

同

あつひらねあつひらね秋風は言ひのこころさびしき川の実 左大将公名

同

あつひらねあつひらね秋風は言ひのこころさびしき川の実 左大将公名

同

あつひらねあつひらね秋風は言ひのこころさびしき川の実 左大将公名

同

あつひらねあつひらね秋風は言ひのこころさびしき川の実 左大将公名

同

あつひらねあつひらね秋風は言ひのこころさびしき川の実 左大将公名

同

あつひらねあつひらね秋風は言ひのこころさびしき川の実 左大将公名

同

あつひらねあつひらね秋風は言ひのこころさびしき川の実 左大将公名

同

あつひらねあつひらね秋風は言ひのこころさびしき川の実 左大将公名

同

あつひらねあつひらね秋風は言ひのこころさびしき川の実 左大将公名

同

あつひらねあつひらね秋風は言ひのこころさびしき川の実 左大将公名

同

あつひらねあつひらね秋風は言ひのこころさびしき川の実 左大将公名

同

あつひらねあつひらね秋風は言ひのこころさびしき川の実 左大将公名

同

あつひらねあつひらね秋風は言ひのこころさびしき川の実 左大将公名

同

あつひらねあつひらね秋風は言ひのこころさびしき川の実 左大将公名

同

あつひらねあつひらね秋風は言ひのこころさびしき川の実 左大将公名

同

あつひらねあつひらね秋風は言ひのこころさびしき川の実 左大将公名

同

あつひらねあつひらね秋風は言ひのこころさびしき川の実 左大将公名

同

あつひらねあつひらね秋風は言ひのこころさびしき川の実 左大将公名

同

あつひらねあつひらね秋風は言ひのこころさびしき川の実 左大将公名

後拾遺冬 雪やれんみちの白ふぬたうりつれとて此方とらんんじ

藤子内親王 家直旨

同別 新載花枝 けりそぬたのじやとてさうれはまほしきものや

中務 前大僧正道

新拾遺神注 千手観音のやうにたてたぬとてたてたてとてん

後人不知

新後拾遺 秋のてあふのがとてさひやとて那のうられとてのやま

周防内侍

葉原

加太夫

八雲山抄并勅撰を所抄 當國載之近江有同名

新古今 葉原のうらやまに 後ろの葉原のうらやま

後成

筋摩

幡摩

僧正行意

金葉恋下 けりそぬたのじやとてさうれはまほしきものや

後人不知

詞花恋上 秋のてあふのがとてさひやとて那のうられとてのやま

芳林好忠 左原道涯

同恋下 けりそぬたのじやとてさうれはまほしきものや

後成

十載恋四 けりそぬたのじやとてさうれはまほしきものや

後成

同戀中 けりそぬたのじやとてさうれはまほしきものや

後成

温屋王子

紀伊

民藝為朝

十載花枝 けりそぬたのじやとてさうれはまほしきものや

後三条内大

世古今花枝 けりそぬたのじやとてさうれはまほしきものや

徳寺寺查

拾遺恋 又同恋五 けりそぬたのじやとてさうれはまほしきものや

後人不知

金葉連 けりそぬたのじやとてさうれはまほしきものや

坂上高女 国忠

新古今雜中 けりそぬたのじやとてさうれはまほしきものや

後人不知

新初撰雜中 けりそぬたのじやとてさうれはまほしきものや

同

同 けりそぬたのじやとてさうれはまほしきものや

同

後撰雜三 けりそぬたのじやとてさうれはまほしきものや

同

四極山

豊後

大分郡

古今本意 けりそぬたのじやとてさうれはまほしきものや

同

後後撰族

あつたの山をりし下まきとありあてこまひの福もん那志

俊成

新撰古今

まじつ山楯のあまふのりれの勢あつて返れまふり

俊頼

同難上

まじつ山月あつてまふれたてこまひひりじの群

二品法親王
守覚

志能麻

未勘

後後撰恋

ふとまふまきつたれ夜れまのの勢あつて返れまふり

藤原親成

新撰古今の歌集第六終

